100th

NHKSO

NHK SYMPHONY ORCHESTRA

TOKYO

Philharmony

November 2026

NHK Symphony Orchestra, Tokyo

11



終演時のカーテンコールを撮影していただけます

スマートフォンやコンパクトデジタルカメラなどで撮影していただけます。
SNSでシェアする際には、ハッシュタグ「#N響」「#nhkso」の追加をぜひお願いいたします。
ほかのお客様の映り込みにはご注意ください。

※撮影はご自席からとし、手を高く上げる、望遠レンズや三脚を使用するなど、
周囲のお客様の迷惑となるような行為はお控えください

You are free to take stage photos during the curtain calls at the end of the performance.

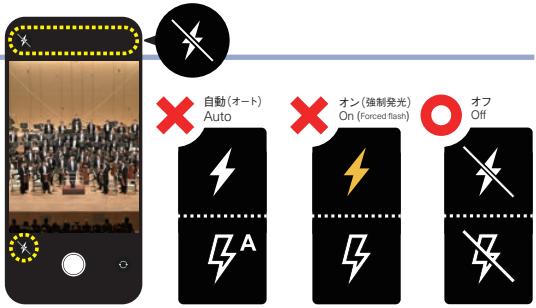
You can take photos with your smartphone or compact digital camera.
When you share the photos on social media, please add #nhkso.
Be careful to avoid accidentally including any audience members in your photos.

「フラッシュ」オフ設定確認のお願い

撮影前に、スマートフォンのフラッシュ設定が「オフ」になっているかご確認をお願いいたします。

Set your device to “flash off mode.”

Make sure that your smartphone is on “flash off mode” before taking photos.



スマートフォンのフラッシュをオフにする方法 | 多くの機種では、カメラ撮影の画面の四隅のどこかに、フラッシュの状態を示す⚡（カミナリマーク）を含むアイコンが表示されています。これをタップすることで、「オン（強制発光）」「自動（オート）」「オフ」に変更できます。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。ご協力をお願いいたします。

詳しくは53ページをご覧ください

こちらのQRコードからアンケートページへアクセスできます

https://www.nhkso.or.jp/enquete.html

お客様へのお願い

Please kindly keep in mind the following:

公演中は携帯電話、時計のアラーム等は必ずお切りください
Be sure to set your phone to silent mode and turn off your watch alarm etc. during the performance.

私語、パンフレットをめくる音など、物音が出ないようご配慮ください
Please refrain from making any noise, such as engaging in private conversations or turning booklet pages.

大きく手足を揺らしたり体を乗り出したりするなど他のお客様にご迷惑となる行為はおやめください
Do not disturb others by overly swaying your body.

発熱等の体調不良時にはご来場をお控えください
Please refrain from visiting the concert hall if you have a fever or feel unwell.

演奏は最後の余韻までお楽しみください
Please wait until the performance has completed before clapping hands or shouting “Bravo.”

演奏中の入退場はご遠慮ください
Please refrain from entering or leaving your seat during the performance.

適切な手指の消毒、咳エチケットにご協力ください
Your proper hand disinfection and cough etiquette are highly appreciated.

場内での録画、録音、写真撮影は固くお断りいたします（終演時のカーテンコールをのぞく）
Video or audio recordings, and still photography at the auditorium are strictly prohibited during the performance. (Except at the time of the curtain calls at the end of the concert.)

補聴器が正しく装着されているかご確認ください
Please make sure that your hearing aids are properly fitted.

NHK交響楽団
カスタマー・ハラスメントに対する基本方針（PDF）

PHILHARMONY

CONTENTS
NOVEMBER 2026

11

4 特集 最も心に残ったN響コンサート&ソリスト2025–26

10 ［公演プログラム］Aプログラム

16 ［公演プログラム］Bプログラム

21 ［公演プログラム］Cプログラム

27 ［隔月連載］検証! ベートーヴェン伝説 | 第2回 |
「盲目の少女のために月光ソナタを作曲した」のは本当か? かげはら史帆

2 NHK交響楽団メンバー
31 2026年12月定期公演のプログラムについて――公演企画担当者から
33 チケットのご案内（定期公演2026年9月～2027年6月）
34 2026–27定期公演プログラム
36 ［速報］2027–28定期公演プログラム
39 特別公演／各地の公演
46 特別支援・特別協力・賛助会員
50 「N響100年」特別賛助会員・個人サポーター
52 曲目解説執筆者／N響の出演番組
53 みなさまの声をお聞かせください!
54 NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO Members

Artist Profiles & Program Notes

55 Program A
59 Program B
63 Program C

66 The Subscription Concerts Program 2026–27
68 N響関連のお知らせ
69 N響の社会貢献
70 役員等・団友

NHK交響楽団

首席指揮者:ファビオ・ルイージ
名誉音楽監督:シャルル・デュトワ
桂冠名誉指揮者:ヘルベルト・ブロムシュテット
桂冠指揮者:ウラディーミル・アシュケナージ
名誉指揮者:パーヴォ・ヤルヴィ
正指揮者:尾高忠明、下野竜也

第1コンサートマスター:郷古 廉、長原幸太
ゲスト・コンサートマスター:川崎洋介

第1ヴァイオリン

青木 調
飯塚歩夢
○宇根京子
大鹿由希
○倉冨亮太
後藤 康
小林玉紀
髙井敏弘
東條太河
猶井悠樹
中村弓子
降旗貴雄
松田拓之
○三又治彦
宮川奈々
○山岸 努
○横溝耕一

第2ヴァイオリン

◎大宮臨太郎
◎森田昌弘
齋藤麻衣子
○嶋田慶子
清水伶香
○白井 篤
○田中晶子
坪井きらら
丹羽洋輔
平野一彦
船木陽子
俣野賢仁
村尾隆人
矢津将也
山田慶一
○横島礼理
米田有花
＊湯原佑衣

ヴィオラ

◎佐々木 亮
◎村上淳一郎
☆中村翔太郎
小畠茂隆
栗林衣李
□坂口弦太郎
谷口真弓
飛澤浩人
○中村洋乃理
松井直之
三国レイチェル由依
＃御法川雄矢
○村松 龍
＊和田志織

チェロ

◎辻本 玲
◎藤森亮一
市 寛也
小畠幸法
○中 実穂
○西山健一
藤村俊介
藤森洸一
宮坂拡志
村井 将
矢部優典
○山内俊輔
渡邊方子

コントラバス

◎吉田 秀
○市川雅典
稲川永示
○岡本 潤
今野 京
○西山真二
本間達朗
矢内陽子

フルート

◎甲斐雅之
◎神田寛明
梶川真歩
＃中村淳二

オーボエ

◎中村周平
◎吉村結実
池田昭子
坪池泉美
和久井 仁

クラリネット

◎伊藤 圭
◎松本健司
堂面宏起
山根孝司

ファゴット

◎宇賀神広宣
◎水谷上総
大内秀介
佐藤由起
森田 格

ホルン

◎今井仁志
石山直城
勝俣 泰
木川博史
庄司雄大
野見山和子
◇福川伸陽

トランペット

◎菊本和昭
◎長谷川智之
安藤友樹
藤井虹太郎
山本英司

トロンボーン

◎古賀 光
◎新田幹男
池上 亘
黒金寛行
＊紺野駿人

テューバ

池田幸広

ティンパニ

◎久保昌一
☆植松 透

打楽器

石川達也
黒田英実
竹島悟史

ハープ

早川りさこ

ステージ・マネージャー

徳永匡哉

ライブラリアン

沖 あかね
木村英代

こちらのQRコードから
楽員の詳しいプロフィールが
ご覧いただけます。

https://www.nhkso.or.jp/about/member/index.html

（五十音順、◎首席、◇首席客演、☆首席代行、○次席、□次席代行、＃インスペクター、＊契約）

Special Thanks



NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

特別支援	With Special Support of
岩谷産業株式会社	Iwatani Corporation
三菱地所株式会社	Mitsubishi Estate Co., Ltd.
MIZUHO みずほ銀行	Mizuho Bank, Ltd.
公益財団法人 渋谷育英会	Shibuya Scholarship Foundation
東日本旅客鉄道株式会社	East Japan Railway Company
NTT EAST	NTT East, Inc.
東京海上ホールディングス株式会社	Tokio Marine Holdings, Inc.
株式会社ポケモン	The Pokémon Company

ＮＨＫ交響楽団は上記の各社から特別支援をいただいております。

2025年5月、マーラー・フェスティバル（アムステルダム・コンセルトヘボウ）にて ©Milagro Elstak



N響 最も心に残ったコンサート&ソリスト 2025–26

1997年に「N響ベスト・コンサート」として始まって以来、今回で27回目を迎えるファン投票企画「最も心に残ったN響コンサート＆ソリスト」。2025–26シーズン（2025年9月～2026年6月）の定期公演から、演奏をお聴きになったみなさまに投票をお願いし、今回も700件以上の票が集まりました。みなさまの思い出がどのように順位に反映されているでしょうか。投票にご参加いただいたみなさま、ご協力ありがとうございました。

最も心に残った

N響コンサート2025–26

第1位 | 10月Aプロ | 第2046回 2025年10月18、19日

ストラヴィンスキー／詩篇交響曲(日本語字幕付き)

メンデルスゾーン／交響曲 第2番 変ロ長調 作品52「讃歌」*(日本語字幕付き)

指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット　ソプラノ:クリスティーナ・ランツハマー*　メゾ・ソプラノ:マリー・ヘンリエッテ・ラインホルト*　テノール:ティルマン・リヒディ*　合唱:スウェーデン放送合唱団





人生初のN響のコンサートで、最愛の曲を同曲最高の理解者で聞くことができた。半年以上経った今でも、強烈に印象に残る、最高のコンサートだった。(藤田怜也)

現地で聴いてとても感動しました。このような演奏は一生のうち何回巡り会うかわからないと思いました。(ひぃ)

まずプログラムが素晴らしかった。《詩篇交響曲》《讃歌》とも人生を寿ぐマエストロからの贈り物のよう。オケはもとより歌手陣・合唱とも非常に水準が高く、馴染みのない曲であるにも関わらず終始聴き入った。(エマちゃん)

ステージ上と客席の全員がブロムシュテットさんへの尊敬と感謝の気持ちを共有した、記憶に残る演奏会でした。3人の歌手は粒揃いで、とりわけ女声二重唱は息をのむほどの美しさ。 N響も渾身の演奏で、《讃歌》のクラリネットの響きは格別でした。そして音楽の大きなうねりを創り出していたのはスウェーデン放送合唱団。また来てほしいです。(池田太朗)

1日目を聞きました。本当にそこに神が存在しているように感じました。 NHKホールが豊かに響いていて、独唱、合唱、オケがマエストロのもとに結集していたのがすごかったです。(ジョニー)

ベートーヴェンの《第9》に劣らぬ名曲であることを認識させる超名演でした。巨匠の指揮でありながら、若々しさに満ちており、すがすがしささえ感じました。(戸次一夫)

メンデルスゾーン《讃歌》の後半、「夜は過ぎ去り、／昼が近づいてくる(Die Nacht ist vergangen, / der Tag aber herbei gekommen.)」の箇所で、会場に本当に光が差し込んだように感じました。演奏中に垣間見えたマエストロの横顔が、音楽を奏でる喜びに満ち溢れた表情であったことも印象に残っています。(小田嶋 大)

指揮者のパッション、ソリストの輝き、オーケストラと合唱の力量、すべてが揃った完成度が高いコンサートでした。メンデルスゾーンの《讃歌》の魅力を日本の聴衆に知らしめたと思います。(bowwow)

ブロムシュテットさんの指揮をどうしても聞きたくて、《讃歌》は聞いたことがない曲でしたが購入していきました。あまりにも素晴らしすぎて、それ以来ヘビーローテーションで聞くほど大好きな曲になりました。新しい世界を教えてくださったブロムシュテットさん、ソリストのみなさんと遠い国から来てくださった合唱団のみなさま、そしてN響のみなさまに心から感謝です! (AO)

第2位 | 11月Cプロ | 第2049回 2025年11月14、15日

ラヴェル／亡き王女のためのパヴァーヌ

ラヴェル／組曲「クープランの墓」

ラヴェル／バレエ音楽「ダフニスとクロエ」(全曲)★

指揮:シャルル・デュトワ　合唱:二期会合唱団★



想像以上の素晴らしさで、すぐに「今シーズンの1位はこれで決まり」と思った。合唱が入り豪華この上なく、またフルートの音色がこの世で聴けるものとは思えない、言葉に言い表せないもので驚いた。あの場にいた者だけが味わえた体験だったと思う。(羽根みどり)

40年ほど前からデュトワの実演をさまざまなオーケストラで数多く聴いていますが、11月Cプロの《ダフニスとクロエ》は次元が違う超名演でした。N響の演奏も信じられないほど素晴らしく、まさにN響の歴史に残る希有な最高の超名演だと思いました。(柳橋)

第3位 | 11月Aプロ | 第2048回 2025年11月8、9日

メシアン／神の現存の3つの小典礼★

ホルスト／組曲「惑星」作品32

指揮:シャルル・デュトワ　ピアノ:小菅 優★　オンド・マルトノ:大矢素子★　女声合唱:東京オペラシンガーズ



デュトワさんの指揮を初めて目の前で見ましたが、それはもう、圧倒的な凄さで、《惑星》の最初の音を聞いた瞬間にノックアウトされました。ホルストの迫力ある音楽と虹色の響きが素晴らしい。指揮姿は本当に格好よくて、歳は関係ないのだなと改めて思いました。最初のメシアンもオペラシンガーズやソリストのみなさんの出来も出色でした。メシアンを好きになりました。(鍛治礼子)

いつものN響のそれとは異なる音がホールを支配していた。音量は凄まじいがふくよかで色々な楽器の音がくっきりと聞こえてくる。マエストロとN響の長年の蓄積と綿密なリハーサルの賜物! メシアンも含めてコンサート全体が希有の名演でした! (二本柳啓文)

第4位 | 1月Aプロ | 第2054回 2026年1月17、18日

マーラー／交響曲 第6番 イ短調「悲劇的」

指揮:トゥガン・ソヒエフ



緩急の付け方が独創的でかつ感傷的で印象深い。《悲劇的》というと木槌(きづち)の印象だが、その他のメロディの豊かさが際立って、新しい側面を数多感じさせてくれた名演でした。(TY)

マエストロ・ソヒエフとオーケストラの強固な信頼関係のうえに成し遂げられた超名演。このコンビのますます輝かしい未来を予想せずにはいられなかった。(田口俊明)

わたしにとっては苦手なこの曲を最後まで一気に聴かせてくれたN響の実力に脱帽。ソヒエフの誠実な指揮ぶりも見事。(山本英一)

第5位 | 10月Cプロ | 第2047回 2025年10月24、25日

ブラームス／ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品83

ブラームス／交響曲 第3番 ヘ長調 作品90

指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット　ピアノ:レイフ・オヴェ・アンスネス



指揮のブロムシュテットさんがブラームスと溶け合って、音と戯れているようでとても美しかった。(あきこ)

《ピアノ協奏曲第2番》は華美を排した素朴で明るく清らかで秩序だった美しさ。それだけに第3楽章のチェロとの甘美な掛け合いは天国的美しさが際立ち生きていて良かったと思えた。(チョコバン)

ブロムシュテットの指揮に往年を彷彿させる活力が蘇り、N響もそれに存分に応えて、神がかったような音楽を醸し出していました。人間味に溢れる暖かさと優しさが感じられる演奏でした。(西田広文)

第6位 | 2月Aプロ | 第2057回 2026年2月7、8日

シューマン／交響曲 第3番 変ホ長調 作品97「ライン」

ワーグナー／楽劇「神々のたそがれ」―「ジークフリートのラインの旅」「ジークフリートの葬送行進曲」「ブリュンヒルデの自己犠牲」*

指揮:フィリップ・ジョルダン　ソプラノ:タマラ・ウィルソン*



フィリップ・ジョルダンが顔の表情、視線、10本の指先、そして全身を使って、楽団員一人ひとりに細かく指示を送って的確に統率することで生み出されたキレのある音が素晴らしかった。(松村五郎)

ジョルダン氏の古風とも言える指揮ぶりは往年の巨匠を思わせるものでした。タマラ・ウィルソンの歌唱も圧倒的で、NHKホールがオペラパレスのようでした。終演後のカーテンコールの熱狂は凄まじいものだったことが印象深いです。(おんきち)

気をてらったところはないが、すべての表現がピタリとハマり、音楽的な充実度が凄かった。(ふよふよ)

第7位 | 10月Bプロ | 第2045回 | 2025年10月9、10日
グリーグ／組曲「ホルベアの時代から」作品40
ニルセン／フルート協奏曲
シベリウス／交響曲 第5番 変ホ長調 作品82
指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット
フルート:セバスティアン・ジャコー

第8位 | 4月Bプロ | 第2061回 | 2026年4月16、17日
モーツァルト／クラリネット協奏曲 イ長調 K. 622
マーラー／交響曲 第5番 嬰ハ短調
指揮:ファビオ・ルイージ
クラリネット:松本健司(N響首席クラリネット奏者)

第9位 | 6月Aプロ | 第2067回 | 2026年6月13、14日
ワーグナー／楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」前奏曲
モーツァルト／ピアノ協奏曲 第17番 ト長調 K. 453
バルトーク／管弦楽のための協奏曲
指揮:ヤープ・ヴァン・ズヴェーデン
ピアノ:コンラッド・タオ

第10位 | 4月Aプロ | 第2060回 | 2026年4月11、12日
ハイドン／チェロ協奏曲 第1番 ハ長調 Hob. VIIb-1
ブルックナー／交響曲 第9番 ニ短調
指揮:ファビオ・ルイージ
チェロ:ヤン・フォーグラー

最も心に残った

ソリスト 2025–26

第1位 | 10月Aプロ | 第2046回 2025年10月18、19日

スウェーデン放送合唱団（合唱）

ストラヴィンスキー／詩篇交響曲(日本語字幕付き)

メンデルスゾーン／交響曲 第2番 変ロ長調 作品52「讃歌」(日本語字幕付き)



ブロムシュテットの指揮に深い信頼をもって応える、スウェーデン放送合唱団の歌声が強く心に残りました。決して大人数ではありませんでしたが、その澄み切った響きと豊かな表現力は、広大なNHKホールを満たし、客席の一人ひとりにまで確かに届いていました。「世界最高峰」と称される理由を、改めて実感させられた演奏でした。（石川友規）

「詩篇」という同じ題材でありながらもまったく違う2つの作品を精緻に表現することのできる合唱団の力量は本当に高く、所々で聴かせる声部ごとの絶妙な音量のバランスやクレッシェンド・デクレッシェンドのかけ方などがドキッとするくらい美しかったです。（びんよよん）

合唱の音色というのはこんなにも澄んでいて神々しいのかと気付かされました。（おんきち）

第2位 | 6月Cプロ | 第2068回 2026年6月19、20日

HIMARI（ヴァイオリン）

シベリウス／ヴァイオリン協奏曲 ニ短調 作品47



音が澄んでいて、かつ表現が実に生き生きとしている。14歳とは思えない。真の逸材だと感じた。（満田達夫）

14歳という若さで、完璧なテクニックと曲に対する深い理解に裏打ちされたあれほど説得力のある音楽を奏でられることに驚嘆する思いだった。アンコールも含め、思わず聴き入ってしまう素晴らしい演奏だった。（七瀬）

第3位 | 10月Cプロ | 第2047回 2025年10月24、25日

レイフ・オヴェ・アンスネス（ピアノ）

ブラームス／ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品83



ピアノの音色がよく通っていて、オーケストラと指揮者との一体感が素晴らしかったです。（めんちゃん）

前回より更に円熟味が増してきたアンスネス氏の演奏がブラームスの名曲に色を添えてくれました。（請川克宣）

アンスネスさんは、豪快、重厚以外のブラームスの面を、しっかりと丁寧に表現してくださいました。（山田洋一）

第4位
4月Cプロ | 第2062回
2026年4月24、25日
反田恭平(ピアノ)
プロコフィエフ／ピアノ協奏曲 第3番 ハ長調 作品26

第5位
6月Aプロ | 第2067回
2026年6月13、14日
コンラッド・タオ(ピアノ)
モーツァルト／ピアノ協奏曲 第17番 ト長調 K. 453

第6位
12月Aプロ | 第2051回
2025年11月29、30日
レオニダス・カヴァコス(ヴァイオリン)
ショスタコーヴィチ／ヴァイオリン協奏曲 第1番 イ短調 作品77

投票を通じて寄せられたみなさまの声

北海道在住の私は、クラシックに目覚めた高校1年の時（1977年～）から『N響アワー』、FM放送、『クラシック音楽館』などを約50年間ずっと見聴きし続けています。徳永兄弟、田中千香士さん、千葉馨さん、小島葉子さんの時代から現在もです。大学上京時に憧れのN響を憧れのNHKホールで、コシュラー、ノイマン、外山雄三、スウィトナー等の指揮で聴きました。素晴らしい演奏でした! 北海道公演は必ず聴きにいっています! 更なる飛躍を期待し、これからも聴き続けていきます。（河野正晴）

N響は夫婦で交互にコンサートに出かけ、ほっとコンサートや地方公演で地元に来てくれた時は家族で聴きに行っています。楽器体験は子どもたちの大好きなイベントで、特に小学生の息子はティンパニの植松さんに教えていただく機会があり、とても喜んでいました。親も感激でした! （文鳥）

会場では隣に居合わせた方とお話しすることが多いのですが、みなさん穏やかで年齢に関係なく対等に話してくださって、いかに音楽がいろいろな方の人生を彩っているのかを感じます。（さいほん）

2025年紅白の《天城越え》演奏がきっかけです。一度でいいから生で聴いてみたいと思っていたところ、倉敷に来られることを知り、チケットを買いました。教科書に出てくる曲くらいしか知らないのですが、初めて聴いたブラームスの《セレナード第1番》は記憶に残るメロディで、今も鼻歌を歌うように頭の中で曲が流れています。もちろんテレビ放送も見ました! オーケストラの皆さんの表情が画面で見られてこちらもよかったです。（大前実栄）

高校の音楽教員です。その時、その瞬間、その場にいなければ味わえない生きた音楽との出会いを楽しみに、定期公演に通っています。このハイクオリティな演奏を生徒たちにも聴かせたい…… と思い、音楽室の黒板横にはN響のチラシを貼ってアピール! 興味がありそうな子には声をかけています。未来を担う若い世代にN響の素晴らしさがもっと伝わりますように。微力ながら、「推し活」を続けていきます! （真壁宗太郎）

学生時代に会員で、今シーズンから再び会員に復帰。神田さんのフルート、吉村さんのオーボエ、松本さんのクラリネットは間違いなく日本一。そのようなアンサンブルを聴けるN響は日本一。会員復帰は間違いなかった。（渡邉 暁）

ファビオ・ルイージが指揮するN響が大好きです。2028年に首席指揮者の座を離れても、毎年（何度でも）招聘していただけたらうれしいです。桂冠名誉指揮者に就任される記念に、ルイージのアクリルスタンドを販売してください! （ばんなこった）

N響の音楽を聴き始めて、29年経ちました。会員としては、早くも25年になります。N響の懐かしいメンバーを『クラシック音楽館』で観て、月日の経つ早さを痛感してしまいます。昔も今も、変わらぬ美しい、感動的なハーモニーに、いつも心温まる思いです。今年の1月に、大事な主人を亡くしましたが、Aプロ、Bプロと、休まず行きました。N響サウンドに、かなり救われました。これからも、せっせと通いたいです。（遠藤利英子）

招聘してほしい指揮者 ベスト5

①クラウス・マケラ
②タルモ・ペルトコスキ
③サイモン・ラトル
④トゥガン・ソヒエフ
⑤フィリップ・ジョルダン

招聘してほしいソリスト ベスト5

①藤田真央
②HIMARI
③ユジャ・ワン
④ヒラリー・ハーン
⑤務川慧悟

PROGRAM

A

第2074回
NHKホール
11/7 土 6:00pm
11/8 日 2:00pm

指揮	トゥガン・ソヒエフ
ヴァイオリン	神尾真由子
コンサートマスター	郷古 廉

プロコフィエフ
ヴァイオリン協奏曲 第1番 ニ長調
作品19［23′］

Ⅰ アンダンティーノ
Ⅱ スケルツォ：ヴィヴァチッシモ
Ⅲ モデラート

――休憩（20分）――

ショスタコーヴィチ
交響曲 第8番 ハ短調 作品65［60′］

Ⅰ アダージョ―アレグロ・ノン・トロッポ―アダージョ
Ⅱ アレグレット
Ⅲ アレグロ・ノン・トロッポ
Ⅳ ラルゴ
Ⅴ アレグレット

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは53ページをご覧ください

こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます

https://www.nhkso.or.jp/enquete.html

Artist Profiles

トゥガン・ソヒエフ（指揮）



1977年、旧ソビエト連邦・北オセチアのウラジカフカス生まれ。サンクトペテルブルク音楽院でイリヤ・ムーシンに師事、ユーリ・テルミカーノフにも学んだ。20代前半から頭角を現し、トゥールーズ・キャピトル国立管弦楽団、ベルリン・ドイツ交響楽団、ボリショイ劇場等の首席指揮者や音楽監督を歴任。オペラとオーケストラ両分野で目覚ましい活躍をみせる。ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団など世界の名だたるオーケストラに客演を続け、2026–27シーズンからスイス・ロマンド管弦楽団の首席指揮者・アーティスティック・アドバイザーに就任。また、2027年元旦恒例のウィーン・フィル・ニューイヤーコンサートを指揮することが発表されている。

NHK交響楽団とは、2008年以来、定期的に共演を重ね、2023年から毎年客演し、厚い信頼関係を築いてきた。11月A・Bプログラムは、ソヒエフがその伝統を継承するロシアのレパートリー。Aプログラムは戦時下ロシアにおけるショスタコーヴィチの苦悩を、Bプログラムはチャイコフスキーとラフマニノフのロマンティシズムと洗練を、オーケストラを細部まで緻密にコントロールしながら描き出す。Cプログラムは、近年N響と取り組み始めているベートーヴェンの交響曲。ゆるぎない指揮が構築性と旋律美を際立たせた充実の演奏となるだろう。

［柴辻純子／音楽評論家］

神尾真由子（ヴァイオリン）



4歳よりヴァイオリンを始める。10代から世界各地のコンクールで入賞を続け、2000年にニューヨークへ留学。ジュリアード音楽院プレカレッジでドロシー・ディレイ、川崎雅夫に師事した。2002年には日本に戻り、桐朋女子高等学校で原田幸一郎に、さらにチューリヒ音楽演劇大学でザハール・ブロンにも師事した。2004年に第1回ダヴィッド・オイストラフ国際ヴァイオリン・コンクールで優勝し、2007年には第13回チャイコフスキー国際コンクールで優勝した。

チューリヒ・トーンハレ管弦楽団、BBC交響楽団など世界の一流オーケストラと共演してきた。NHK交響楽団とは2020年11月公演で原田慶太楼の指揮によりバーバー《ヴァイオリン協奏曲》を披露。同年にはバッハ《無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ》の全曲録音をリリースした。第13回出光音楽賞など受賞歴も多数。指導者としても認められており、現在、東京音楽大学教授である。宗次コレクションより貸与されたストラディヴァリウス「Rubinoff」（1731年製）を使用。ソヒエフと共演するプロコフィエフで、その豊かな音楽性を示してくれるだろう。

［片桐卓也／音楽評論家］

Program Notes | 千葉 潤

絶賛された2025年1月のショスタコーヴィチ《交響曲第7番「レニングラード」》につづき、今回、ソヒエフ／N響が挑むのは、“戦争三部作”の続編となる《第8番》だ。世界中で戦火の絶えない今こそ、戦争の悲劇を告発したこの作品を取り上げる意味は大きい。若きプロコフィエフの叙情的名作との組み合わせの妙味も、ぜひお楽しみいただきたい。

プロコフィエフ

ヴァイオリン協奏曲 第1番 ニ長調 作品19

大胆な不協和音や無機的なオスティナートを駆使して、ロシア・モダニズムをリードしたセルゲイ・プロコフィエフ（1891～1953）。だが彼も、人生では恋の悩み多きひとりの若者であり、叙情性溢（あふ）れる本作の着想は、彼の大恋愛と関連している。お相手はサンクトペテルブルクの裕福な家の娘ニーナ・メシチェルスカヤ。2人は結婚を考えるが、折悪しく第1次世界大戦が勃発。将来のためにロシア・バレエ団の興行主ディアギレフとの関係を強めたいプロコフィエフは、ニーナを“略奪”してヨーロッパへの逃避行を計画するが、彼女の両親の妨害によって挫折し、その後、2人の関係は急速に冷めていった。ほろ苦い青春の思い出は、この協奏曲の最初と最後に奏される“夢見るような”独奏ヴァイオリンが優しく伝えている。

第1楽章　アンダンティーノ、ニ長調、8分の6拍子。“夢見るように”と指示された第1主題と、“語るように”と指示されたプロコフィエフ好みのメカニックな第2主題によるソナタ形式。

第2楽章　スケルツォ：ヴィヴァチッシモ、ホ短調、4分の4拍子。作曲者自身が「スケルツォの中のスケルツォ」と豪語した楽章。ヴァイオリンの超絶技巧が目まぐるしく駆使される。

第3楽章　モデラート、ト短調、4分の4拍子。ラプソディックな主要主題とより律動的な副主題が交互に発展するが、最後は第1楽章主題が再現され、夢幻のなかに消えていく。

作曲年代	1915年（冒頭スケッチ）、1916～1917年
初演	1923年10月18日、セルゲイ・クーセヴィツキー指揮、マルセル・ダリューの独奏、パリ・オペラ座管弦楽団、パリ
楽器編成	フルート2（ピッコロ1）、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、テューバ1、ティンパニ、小太鼓、タンブリン、ハープ1、弦楽、ヴァイオリン・ソロ

ショスタコーヴィチ

交響曲 第8番 ハ短調 作品65

今年、生誕120年を迎えた作曲家ドミートリ・ショスタコーヴィチ（1906〜1975）の音楽は、彼が生涯を送った激動のソ連史と密接に結びついている。特に、独ソ戦時代に書かれた《交響曲第7番》から《第9番》はソ連国民の年代記ともいうべき内容をもち、《第7番》が英雄的な愛国主義の表明、《第9番》が戦後のスターリン神格化への面当てだとすれば、《第8番》は、戦争の非人間性を芸術的な手法で表現した音楽の鎮魂碑である。

本作は、独ソ戦の分岐点といわれるスターリングラードでのソ連軍の勝利をきっかけに、国内が反転攻勢に沸く1943年夏に約2か月で完成された。この間、ショスタコーヴィチは、戦争の恐怖やファシストの残虐行為を収めたニュース映画を毎日のように見ており、戦争の惨禍を目の当たりにしたショックは、この曲全体の悲劇的な音調のみならず、要所に現れる打楽器の威圧的なクレッシェンドや、銃声や爆撃の音響描写にまで深く浸透している。他方、全楽章は基本動機（ド・シ・ド、またはド・レ・ド）によって統一され、第3楽章から第5楽章までは続けて演奏されるなど、交響曲としての一貫性や物語性も強固だ。特筆すべきは、バロック的なトッカータやパッサカリアから、軍楽隊や世俗音楽のパロディ、マーラー的な破局や諦念の表現など、多様な様式を折衷したショスタコーヴィチの豊かな音楽性であり、それらが混然一体となって、この曲に叙事詩としての風格を与えている。

しかしながら、時流に反した悲劇性や辛辣性が仇（あだ）となって、その評判は芳しくなく、1948年のジダーノフ批判以降は、事実上の演奏禁止となった。公的な謝罪を余儀なくされたショスタコーヴィチだったが、翌年12月の友人への手紙には、なおもこう記していた。「私は総譜を最初から最後まで読み直しましたが、その質の高さに驚きました。このような作品を創ったことを誇りに思うし、幸福です」。畢竟（ひっきょう）、どんな状況にあっても真実を直視し、誠実に表現する芸術家は存在する。その勇気こそが、この力強い作品を生み出したことを忘れてはならないだろう。

第1楽章　アダージョ―アレグロ・ノン・トロッポ―アダージョ、ハ短調、4分の4拍子、序奏と第1主題、4分の5拍子の第2主題によるソナタ形式。全曲の約3分の1を占める長大な楽章であり、中央のアレグロの前後をアダージョが囲む独特の構成をもつ。展開部では叙情的な主要主題が金管中心の狂暴な行進曲と化し、胸を抉（えぐ）るような壮絶なドラマを繰り広げる。強烈なクレッシェンドで序奏が再現されたあと、緊迫した空気を一瞬で鎮静するイングリッシュ・ホルンのソロが効果的である。

第2楽章　アレグレット、変ニ長調、4分の4拍子、スケルツォ風の行進曲。世俗音楽のグロテスクなパロディであり、行進曲の主題前半は、戦前のドイツで流行したフォックストロット《ロザムンデ》への仄（ほの）めかしである。他方、中間部では、半音ずつ上下に広がっ

ていく無機質な主題が、さまざまな楽器で対位法的に展開される。滑稽だった行進曲が次第に狂躁（きょうそう）の度を増し、やがて中間部主題の荒れ狂うフガートに至る再現部は、陽気な日常がいつの間にか恐ろしいファシズムへと変わっていく現代社会の見事なカリカチュアとなっている。

第3楽章　アレグロ・ノン・トロッポ、ホ短調、2分の2拍子、3部形式。主部は剝き出しのユニゾンによるトッカータであり、その上から基本動機を変形した主題が爆撃さながらに下行する。独奏トランペットで始まる中間部のギャロップは、軍楽隊のグロテスクなパロディだろうか。切迫したクレッシェンドが切れ目なく次楽章を導き出す。

第4楽章　ラルゴ、嬰ト短調、4分の4拍子。殺伐としたトッカータにつづくのは厳粛なパッサカリアの葬送行進曲であり、11回目の変奏のあと澄み切ったハ長調に到達する（ショスタコーヴィチは、「この長調に私がどれほどの血を流したことか」と語ったという）。

第5楽章　アレグレット、ハ長調、4分の3拍子。ファゴットが朗らかにロンド主題を提示するが、展開部では大規模なフガートに発展し、やがて悲劇を呼び覚ますように第1楽章の序奏が回帰する。次第に室内楽的な響きに移行しながら2つのエピソードが逆順で再現され、最後は基本動機をつぶやきながら、静かに消えて行く。

作曲年代	1943年7月2日から9月9日
初演	1943年11月4日、エフゲーニ・ムラヴィンスキー指揮、ソ連国立交響楽団、モスクワ
楽器編成	フルート4（ピッコロ2）、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、Esクラリネット1、バス・クラリネット1、ファゴット3（コントラファゴット1）、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、小太鼓、トライアングル、タンブリン、銅鑼、シロフォン、弦楽

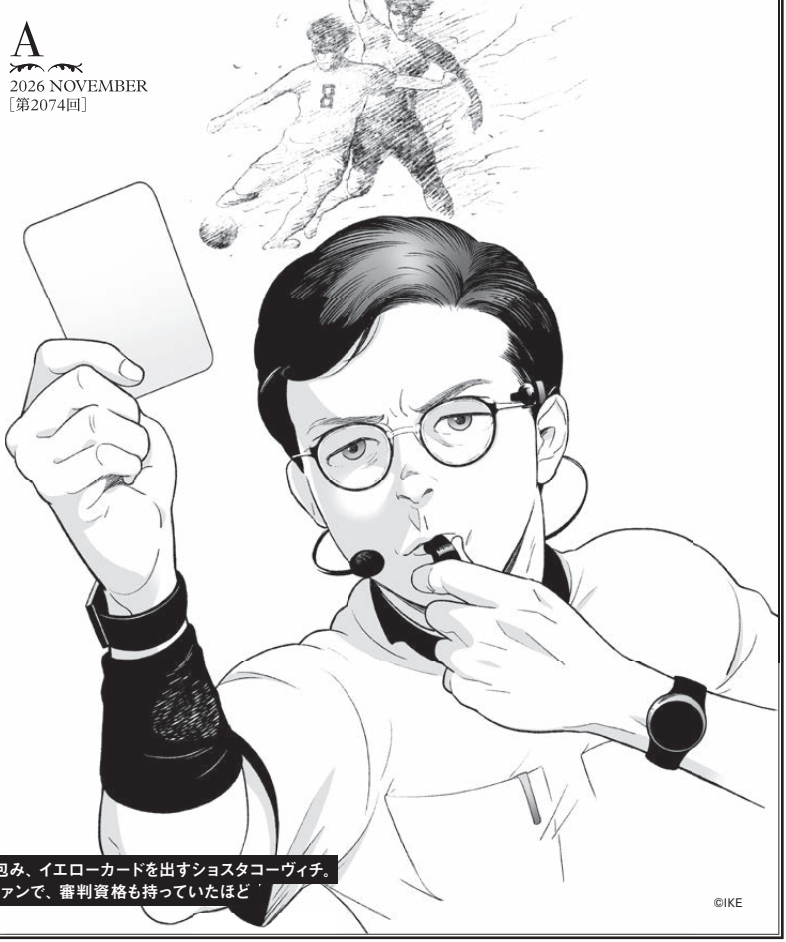
イラスト：IKE／文：松井治伸

ショスタコーヴィチとサッカー

「苦悩」の作曲家のもうひとつの顔

今年はFIFAワールドカップ2026に沸いた年。もしもショスタコーヴィチがこの世に舞い戻ったら、きっと熱心に観戦していたことでしょう。彼は熱烈なサッカーファンでした。足しげく観戦に通い、ひいきのチームの選手と交流しただけでなく、試合結果や得失点差、ゴールした選手名などを詳細に記録したノートまで残しています。彼のノートは、戦前のソ連サッカーの記録を補う貴重な資料になっているそうです。当局からの批判に神経をとがらせながら作曲を続けたショスタコーヴィチ。彼にとってサッカーはつかの間の安らぎだったのかもしれません。

A
2026 NOVEMBER
［第2074回］



現代の審判服に身を包み、イエローカードを出すショスタコーヴィチ。
筋金入りのサッカーファンで、審判資格も持っていたほど

©IKE

PROGRAM

B

第2076回
サントリーホール
11/19 木 7:00pm
11/20 金 7:00pm

指揮	トゥガン・ソヒエフ プロフィールはp. 11
ピアノ	アレクサンドル・カントロフ
コンサートマスター	郷古 廉

ラフマニノフ
ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18
［34′］
Ⅰ モデラート
Ⅱ アダージョ・ソステヌート
Ⅲ アレグロ・スケルツァンド

――休憩（20分）――

チャイコフスキー
バレエ音楽「くるみ割り人形」作品71
（ソヒエフ・セレクション）［38′］
序曲
［第2幕］
第10曲 情景（砂糖の山の魔法の城で）
第11曲 情景（クララと王子）
第12曲 喜遊曲
a）チョコレート（スペインの踊り）
b）コーヒー（アラビアの踊り）
c）お茶（中国の踊り）
d）トレパーク（ロシアの踊り）
e）あし笛の踊り
f）ジゴーニュおばさんとピエロ
第13曲 花のワルツ
第14曲 パ・ド・ドゥー
c）ヴァリアシオン（第2）こんぺい糖の精の踊り
a）序奏

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください
N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。
詳しくは53ページをご覧ください

こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます
https://www.nhkso.or.jp/enquete.html

Artist Profile

アレクサンドル・カントロフ（ピアノ）



アレクサンドル・カントロフは1997年生まれで、現在29歳。2019年にモスクワで行われたチャイコフスキー国際コンクールピアノ部門で優勝、さらに史上4人目のグランプリも合わせて受賞した。

フランク・ブラレイやレナ・シェレシェフスカヤらに師事。早くからライジング・スターとして注目され、10代半ばからヨーロッパの主要舞台で活躍している。2024年に権威あるギルモア・アーティスト賞をフランス人として初受賞、さらにフランス共和国大統領より国家功労勲章シュヴァリエの称号を授与。同年のパリ・オリンピックで演奏を披露するなど、20代ですでに名実ともにフランスを代表する音楽家となっている。

初来日は17歳。来日するたびに鮮やかな成熟ぶりを示し、多くの音楽ファンを虜にしてきた。音楽を通して自身の解釈を雄弁に語り、濃密で深淵（しんえん）な音の世界を繰り広げる。冷静な眼差しと燃え立つようなパッションを兼ね備えたカントロフのパフォーマンスは、名ヴァイオリン奏者の父ジャン・ジャック・カントロフを想起させる。

N響とはこの公演が初共演となる。ロシアにルーツを持つカントロフが、ラフマニノフの不朽の名作をどのように聴かせてくれるだろうか。

［道下京子／音楽評論］

Program Notes | 増田良介

ロシアの生んだ最高に美しい名曲2曲が聴ける演奏会だ。2019年チャイコフスキー国際コンクールの覇者で、今やフランスを代表するピアニストとなったアレクサンドル・カントロフを迎えてのラフマニノフの《ピアノ協奏曲第2番》、そして目下世界で大活躍のマエストロ、ソヒエフ自身によるチャイコフスキー《くるみ割り人形》のセレクションと来れば、これ以上何が望めるだろうか。ロシア音楽ファンならずとも見逃せない豪華なプログラムだ。

ラフマニノフ

ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18

セルゲイ・ラフマニノフ（1873～1943）は、優れた作曲家であると同時に、世界最高のピアニストのひとりでもあった。美しい旋律と華麗な技巧で知られる《ピアノ協奏曲第2番》は、彼の代表作だ。

この曲を作曲する前、ラフマニノフは極度のスランプ状態にあった。1897年3月、心血を注いだ《交響曲第1番》の初演が大失敗に終わったために、自信を失ってしまってい

たのだ。しかし、友人の紹介で精神科医のニコライ・ダール博士の催眠療法を受けたラフマニノフは新しいピアノ協奏曲を書き始め、1901年春、ついに全曲を完成する。その年の秋に行われた初演は大成功を収め、ラフマニノフは自信を取り戻した。彼はこの作品を、恩人ダール博士に献呈した。

全曲は、協奏曲の標準的な形式に従い、3つの楽章からなる。各楽章にはそれぞれ短い序奏があるが、第1楽章は序奏がヘ短調で主部がハ短調、第2楽章はハ短調からホ長調、第3楽章はホ長調からハ短調というように、序奏と主部の調性がそれぞれ違うことが、この曲のひとつの特徴となっている。また、第2楽章と第3楽章の序奏は、それぞれ前の楽章の調性で書かれており、楽章間の移行をスムーズにする役割を担っている。

第1楽章　モデラート。ピアノによる和音の連打が高まっていくと、ピアノの分散和音を伴奏として、弦とクラリネットが情熱的な第1主題を演奏する。ピアノの歌う第2主題は長調の甘美な旋律だ。再現部では、第1主題が決然とした行進曲風に変わり、第2主題はホルンが吹く。

第2楽章　アダージョ・ソステヌート。ピアノの分散和音に乗せてフルートが吹く主題は夢見るように美しい。中間部ではテンポが速まり、ピアノがめまぐるしく動きだす。遅い楽章の途中に急速な部分をはさむのは、ラフマニノフの愛用した手法だ。

第3楽章　アレグロ・スケルツァンド。序奏に続き、スケルツォ的な第1主題が登場する。ヴィオラとオーボエの歌う第2主題は、ラフマニノフの作品で最もよく知られた名旋律だろう。楽章全体は、この2つの主題による自由な変奏曲形式と見ることができる。

作曲年代	1900〜1901年
初演	1901年11月9日（旧ロシア暦10月27日）、作曲者自身のピアノ独奏、アレクサンドル・ジロティ指揮
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、弦楽、ピアノ・ソロ

チャイコフスキー

バレエ音楽「くるみ割り人形」作品71（ソヒエフ・セレクション）

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー（1840〜1893）のバレエ音楽《くるみ割り人形》は、3曲ある彼のバレエのうち最後の作品だ。原作は、ドイツの作家E. T. A. ホフマンの童話『くるみ割り人形とねずみの王様』だが、物語は大幅に単純化されている。

あらすじは次のようなものだ。少女クララがクリスマス・プレゼントにくるみ割り人形をもらう。夜、人形はネズミたちに襲われるが、クララの助力もあり撃退する。クララはお礼にくるみ割り人形から姿を変えた王子から、夢の中でお菓子の国に招かれる。

演奏会では、作曲者自身が作った組曲が取り上げられることが多いが、本日は、ソヒエフ自身の選曲で、全曲の冒頭に置かれた〈序曲〉と、お菓子の国の場面である第2幕

のほとんどが演奏される。なお、このバレエに登場する「こんぺい糖」は、本来はドラジェという、アーモンドなどを糖衣でくるんだ別の菓子なのだが、日本ではなじみが薄いため、昔からこんぺい糖と訳されている。

〈序曲〉　展開部のないソナタ形式をとる。

［第2幕より］

第10曲〈情景（砂糖の山の魔法の城で）〉　最初にひろびろとした旋律が現れるが、これが木管の上行音型とともに変奏されるところで、お菓子の都の宮殿が姿を現す。曲の終わり近くではこんぺい糖の精がお供とともに登場する。

第11曲〈情景（クララと王子）〉　クララと王子（くるみ割り人形）が登場する。王子は、ネズミたちとの戦いでクララがどのように彼を助けたかを皆に語る。宮廷はクララを讃える。この曲の冒頭では、3本のフルートによるフラッター・タンギング（トゥルルルというように舌を震わせる）という奏法が使われている。

第12曲〈喜遊曲〉

a）**〈チョコレート（スペインの踊り）〉**　トランペット独奏で始まる。ボレロのリズムが使われている。

b）**〈コーヒー（アラビアの踊り）〉**　東洋風の舞曲だが、旋律はジョージアの子守歌を用いている。

c）**〈お茶（中国の踊り）〉**　フルートの上行音階が耳に残るユーモラスな舞曲。

d）**〈トレパーク（ロシアの踊り）〉**　ロシアやウクライナの民族舞曲。大麦糖（ねじり棒のようなキャンディ）、または人型のパン菓子と結びつけられることもある。

e）**〈あし笛の踊り〉**　フランス語で「あし笛」を意味するミルリトン（mirliton）は、パイ生地にアーモンドクリームを詰めて焼いた焼菓子の名前でもある。

f）**〈ジゴーニュおばさんとピエロ〉**　靴に住むおばさんと子供たちの踊り。フランスの民謡の旋律が用いられている。

第13曲〈花のワルツ〉　こんぺい糖の精の侍女たちが踊るワルツ。

第14曲〈パ・ド・ドゥー〉

c）**〈ヴァリアシオン（第2）こんぺい糖の精の踊り〉**　〈パ・ド・ドゥー〉の第3曲。数年前に発明されたばかりだったチェレスタが使われている。

a）**〈序奏〉**　4曲からなる〈パ・ド・ドゥー〉の第1曲。

作曲年代	1891年2月から翌年4月
初演	1892年12月18日（旧ロシア暦12月6日）、サンクトペテルブルク、マリインスキー劇場、リッカルド・ドゥリゴ指揮、レフ・イヴァノフ振り付け、スタニスラヴァ・ベリンスカヤ（クララ）、アントニエッタ・デレラ（こんぺい糖の精）、セルゲイ・レガート（くるみ割り人形）ほか
楽器編成	フルート3（ピッコロ1）、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ、シンバル、トライアングル、タンブリン、カスタネット、グロッケンシュピール、チェレスタ1、ハープ2、弦楽

B
2026 NOVEMBER
［第2076回］

イラスト：IKE／文：松井治伸

《くるみ割り人形》で響かせた最先端の音色

チャイコフスキーとチェレスタ

チャイコフスキーのバレエ音楽《くるみ割り人形》には、チェレスタが使われています。鍵盤を使って細い金属の板をたたく楽器で、澄んだ可憐な音がします。《くるみ割り人形》の作曲当時、チェレスタは開発されたばかりでした。旅行先のパリの楽器店でその音色に魅せられたチャイコフスキーは、さっそく作品に取り入れました。〈情景（砂糖の山の魔法の城で）〉では、キラキラと音楽に彩りを添え、〈こんぺい糖の精の踊り〉では、幻想的なソロを聴かせます。チャイコフスキーは最新の楽器も駆使して、お菓子の国の情景にぴったりの音楽を作ったのです。



チェレスタの虜になったチャイコフスキーは
誰よりも早く自作に取り入れるため
他の作曲家に隠れて密かに購入したという

©IKE

PROGRAM

C

第2075回
NHKホール
11/13 金 7:00pm
11/14 土 2:00pm

指揮　トゥガン・ソヒエフ　プロフィールはp. 11

コンサートマスター　長原幸太

N響100年特別企画　ベートーヴェン交響曲全曲演奏3

ベートーヴェン
序曲「コリオラン」［8′］

ベートーヴェン
交響曲 第2番 ニ長調 作品36［37′］

Ⅰ　アダージョ・モルト―アレグロ・コン・ブリオ
Ⅱ　ラルゲット
Ⅲ　スケルツォ：アレグロ
Ⅳ　アレグロ・モルト

――休憩（20分）――

ベートーヴェン
交響曲 第6番 ヘ長調 作品68「田園」
［40′］

Ⅰ　田舎に着いたときに、
　　人々の心に生まれる心地よく朗らかな気持ち：
　　アレグロ・マ・ノン・トロッポ
Ⅱ　小川のほとり：アンダンテ・モルト・モート
Ⅲ　田舎の人々の楽しいつどい：アレグロ
Ⅳ　雷と嵐：アレグロ
Ⅴ　牧歌　嵐のあとの神への感謝に満ちた、
　　寛大な気持ち：アレグレット

※ 演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは53ページをご覧ください

こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます

https://www.nhkso.or.jp/enquete.html

交響曲全曲シリーズ第3弾。脂ののった中堅トゥガン・ソヒエフの指揮のもと、今回はベートーヴェンの音楽がもつ「五感を刺激するダイナミズム」に光をあてる。劇的空間を数分に凝縮した《コリオラン》、はげしい変化で聴き手に崇高な恐怖を与えた《第2番》、そして標題性と音の自律性を高次元で両立させた《第6番》。ただ耳で聴くだけの音楽を超え、ひとつの精神が音でえがきだした多感覚的なイメージを、練達のオーケストラで体感したい。

ベートーヴェン

序曲「コリオラン」

劇作家ハインリヒ・ヨーゼフ・コリンは、かつて自身のとある悲劇の序文にこう書いた。「運命が完全なる重圧で英雄をうちたおすのをみると、あわれみを感じる。しかし、英雄が運命に力であらがうさまは、私に驚きも与える」。運命に立ちむかう人間の精神に自由をみる――この熱い思想はウィーン市民を熱狂させた。

シェークスピアの『コリオレイナス』やプルタルコスの『英雄伝』も知っていたルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン（1770～1827）であるが、本作はウィーンで成功を収めていた劇作家コリンの舞台作品に着想を得たものと考えられている。筆をとった背景には、旧体制の劇場支配人に不満を抱いていたことがある。ロプコヴィッツ侯爵らあらたな経営陣に自分たちの存在をアピールしたいという、コリンと作曲家による共同戦線の意図もあったのかもしれない。

音楽はハ短調で始まる。翌年の《交響曲第5番》へと結晶する、悲劇的な宿命との闘争に好んで選ばれた調である。冒頭、弦楽器の強奏とそれをたちきる休止は、戦士コリオランの憤りを表す。対して、変ホ長調のやさしい第2主題は、祖国ローマの敵となったわが子に「どうか思いとどまっておくれ」と涙ながらに願う母を象徴するのだろう。

英雄は、母の懇願に屈してついに包囲を解く。コーダの最後、エネルギーに満ちていたはずの英雄の主題がゆっくりと崩壊し、ピチカートのなかで息たえるように消えていく。

作曲年代	1807年1～3月
初演	1807年3月、ウィーンのロプコヴィッツ侯爵邸
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、弦楽

交響曲 第2番 ニ長調 作品36

ウィーンに出てきて8年、交響曲デビューを果たしたベートーヴェンは、破竹の勢いでこの《第2番》の作曲にとりかかった。実際、1801年には出版の豊作期を迎え、パトロンのリヒノフスキー侯爵から高額な年金を得るなど、キャリアは順調にみえた。しかし、その活躍の裏では、20代後半から悩まされてきた難聴が抜きさしならぬものとなっていた。1802年秋、まさに本作の作曲がたけなわのころ、彼は「羊飼いが歌っているのに、私には何も聴こえない。もうちょっとで自分の人生を終わらせるところだった」とハイリゲンシュタットの遺書に絶望を書きつけている。

だが、この交響曲はそんな陰をあまり感じさせない。のちにエクトル・ベルリオーズが「すこしの憂うつにも曇らされない、純粋無垢（むく）な幸せ」の描写だと絶賛したとおりである。とはいえ、従来のハイドンやモーツァルトの枠を超えるはげしいダイナミクスの変化や、既定路線ではない転調などは、当時の人々に恐怖さえ抱かせたようだ。

第1楽章は、モーツァルトの《交響曲第38番「プラハ」》を思わせる長大でドラマティックな序奏のあと、主部では、ヴィオラとチェロの低音域のユニゾンで第1主題が提示されるというのも異例である。推敲（すいこう）を重ねて書かれた**第2楽章**は、弦楽器の親密なアンサンブルに木管がよりそう。クラリネットを活かしているのも斬新だ。**第3楽章**は、短い3音のモティーフが飛びかう、快活なスケルツォ。**第4楽章**は、しゃっくりや笑い声を思わせる、風変わりな2音の動機――第1楽章序奏のトリルのモティーフとも連動している――で始まる。楽章全体のおよそ3分の1を占める巨大なコーダは、「第2の展開部」と呼ばれるほどの存在感をほこる。

初演の際、リハーサルが朝8時から昼2時半までおよび、演奏家たちがその技術的な難しさに疲れはてたというエピソードもある。

第1楽章　アダージョ・モルト、ニ長調、4分の3拍子―アレグロ・コン・ブリオ、4分の4拍子。序奏付きのソナタ形式。

第2楽章　ラルゲット、イ長調、8分の3拍子。ソナタ形式。

第3楽章　スケルツォ：アレグロ、ニ長調、4分の3拍子。3部形式。

第4楽章　アレグロ・モルト、ニ長調、2分の2拍子。ロンド・ソナタ形式。

作曲年代	1800年中頃～1802年
初演	1803年4月5日、アン・デア・ウィーン劇場
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、弦楽

交響曲 第6番 ヘ長調 作品68「田園」

本作は、同時期に並行して作曲された《第5番》と対比されて語られることが多い。しかし、スケッチ研究や分析からは、2つの作品はともに革新的な試みに満ち、同じ時期の同じ様式理念から生まれた「双生児」のような関係にあるといえる。

最大の特徴は、ベートーヴェン自身が残した「音画よりも、むしろ感情の表出」という言葉に集約される。当時の描写音楽とは一線を画し、自然に触れた人間の内面を表現しようとした。これに対し、批評家ドナルド・トーヴィーは、標題を重視せず、純粋に音楽的な形式としてとらえようとした。また、美学者のエドゥアルド・ハンスリックは、自然音の模倣と実際の鳥の鳴き声をはっきりと区別し、音楽に用いられるのは前者、つまり楽音のみであると考えた。

全5楽章からなる本作は、伝統的な4楽章制の枠組みを広げ、第3楽章からフィナーレまでが切れ目なく演奏される点が大きな特徴である。**第1楽章**〈田舎に着いたときに、人々の心に生まれる心地よく朗らかな気持ち〉は、弦楽器による弱奏と空虚5度（ファ・ラ・ドのラを抜いた響き）の和声で、どこかなつかしい田園風景を音にしていく。冒頭4小節に置かれたフェルマータは、同じく冒頭にフェルマータを置く《運命》と双生児であることを実感させるつくりだ。

第2楽章〈小川のほとり〉では、低弦の12拍子による音型がせせらぎを表現し、高音域のトリルが鳥のさえずりを象徴する。コーダではナイチンゲール（フルート）、ウズラ（オーボエ）、カッコウ（クラリネット）の鳴き声がダイレクトに模倣される。

第3楽章〈田舎の人々の楽しいつどい〉は、農民たちの群舞を思わせるスケルツォ。ヘ長調とニ長調の対比、あるいは3拍子（主部）と2拍子（中間部のトリオ）の対比や、木管楽器による素朴なメロディが、私たちの聴覚だけでなく視覚的イメージをよびおこす。音楽と言語（標題）が手をたずさえ、五感を刺激してくるのが、第2〜4楽章の最大の面白さかもしれない。

第4楽章〈雷と嵐〉は、唯一の短調楽章である。減七和音などの緊迫した不協和音、ピッコロやトロンボーンの導入により、自然の脅威がリアルタイムに描かれる。

第5楽章〈牧歌　嵐のあとの神への感謝に満ちた、寛大な気持ち〉では、ふたたび感情の表出へともどり、空虚5度の和声も回帰する。のちにベルリオーズが「自然そのものが光輝を放ってあらわれる」と評したように、本作は音楽の自律性（言葉なしに自律していること）と標題性（言語情報をそなえていること）という、一見すると矛盾する領域を高次元で融合させた作品といえるのではないか。

第1楽章　田舎に着いたときに、人々の心に生まれる心地よく朗らかな気持ち：アレグロ・マ・ノン・トロッポ、ヘ長調、4分の2拍子。ソナタ形式。

第2楽章　小川のほとり：アンダンテ・モルト・モート、変ロ長調、8分の12拍子。ソナタ形式。

第3楽章　田舎の人々の楽しいつどい：アレグロ、ヘ長調、4分の3拍子。3部形式。

第4楽章　雷と嵐：アレグロ、ヘ短調、4分の4拍子。

第5楽章　牧歌　嵐のあとの神への感謝に満ちた、寛大な気持ち：アレグレット、ヘ長調、8分の6拍子。ロンド・ソナタ形式。

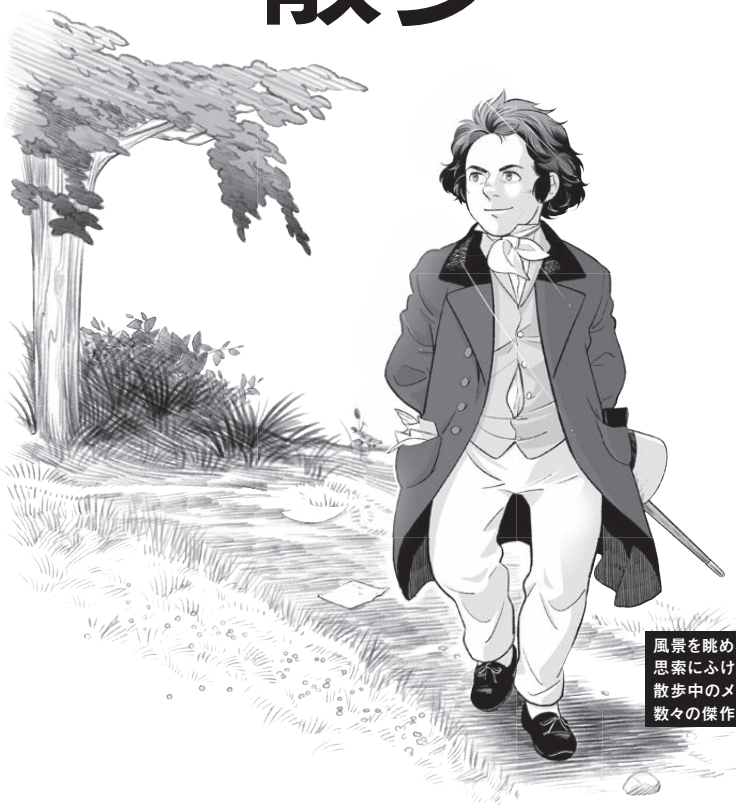
作曲年代	1807～1808年
初演	1808年12月22日、アン・デア・ウィーン劇場
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、トロンボーン2、ティンパニ、弦楽

C
2026 NOVEMBER
［第2075回］

イラスト：IKE／文：松井治伸

「楽聖」ベートーヴェンのこだわり

散歩



風景を眺めながら
思索にふけるベートーヴェン。
散歩中のメモから
数々の傑作が誕生した

©IKE

ベートーヴェンは散歩が大好きでした。ウィーンの街中や郊外で、彼は散歩を欠かすことがありませんでした。必ず持っていったのが手帳です。散歩中にふとひらめいたメロディをメモして作曲に生かすためでした。時には次々と音楽が湧き出して散歩が長引き、食事の時間に遅れて家政婦を困らせたこともあったとか。ウィーン郊外のハイリゲンシュタットには、《交響曲第6番「田園」》ゆかりの散歩道が残っています。小川が流れ、緑に囲まれたこの場所で、ベートーヴェンは《田園》のインスピレーションを得たと言われています。散歩は言わば、彼の創造の源でした。

2027年に没後200年を迎えるルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン。アニバーサリーイヤーに向けて、『ベートーヴェン捏造』などの著書で知られるかげはら史帆さんが、ベートーヴェンをめぐるさまざまな伝説を「検証」しながら「楽聖」の実像に迫ります。連載第2回では、ひと昔前に流布されたあの逸話を取り上げ、それが世に広まった背景を探ります。

隔月連載

検証！ベートーヴェン伝説

かげはら史帆

Beethoven
—the truth behind the legends
Shiho Kagehara

検証 File 2

「盲目の少女のために月光ソナタを作曲した」のは本当か？

いうまでもなく、作り話である

戦前の尋常小学校の教科書に、ベートーヴェンの《月光ソナタ》にまつわるこんな短編が掲載されていたのをご存知だろうか。

「一體(いつたい)あなたはどういふ御方でございますか。」
「まあ待つて下さい。」

ベートーベンはかういつて、さつき娘がひいてゐた曲を又ひき始めた。
「あゝ、あなたはベートーベン先生ですか。」
きやうだいは思はず叫んだ。

ひき終るとベートーベンは、つと立上つた。三人は「どうかもう一曲。」としきりに頼んだ。彼は再びピヤノの前に腰を下した。月は益々さえわたつて来る。「それでは此(こ)の月を題に一曲。」

（『尋常小學國語讀本 卷12』第九課『月光の曲』、1931年）

とある月夜、ベートーヴェンが友人と散歩の折、貧しい兄妹の家の前を通りかかり、盲目の妹のために即興で弾いて聴かせたのが《月光ソナタ》である――。いうまでもなく、これは史実ではなく完全な作り話だ。若い世代では、このエピソード自体を知らないという方も多いだろう。それにもかかわらず、今から100年前、この物語は日本のみならず世界じゅうの本や教科書に掲載されていた。いったい「いつ」「だれが」「なぜ」こんな空想の物語を作り上げ、世に広めたのだろうか。

なぜ「幻想曲風ソナタ」が「月光ソナタ」になったか

《ピアノ・ソナタ第14番嬰ハ短調「幻想曲風ソナタ」》(作品27-2)は、1801年、ベートーヴェンが30歳の頃に作曲され、当時の恋人であった貴族令嬢のジュリエッタ・グイチャルディに献呈された。《交響曲第2番》を手掛けたのとほぼ同時期であり、ベートーヴェンが作曲家として出世を遂げた時期の作品である。発表直後から大きな話題を呼び、人気の過熱ぶりに作曲者本人が苦言を呈したとも伝えられている。

なお、「月光」という愛称は、ベートーヴェン本人が付けたものではない。この人気曲を月光のイメージと結びつけたのは、詩人のルートヴィヒ・レルシュタープ(1799～1860)であると考えられてきた。彼はこの作品を「スイスのルツェルン湖の月光に揺られる小舟」に喩えたことで知られており、別のエッセイでも「湖がかすかな月光のなかで静まり返り、波が暗い岸辺に静かに打ち寄せ、遠くの廃墟からはエオリアン・ハープが孤独な愛の嘆きを神秘的に奏でる」という描写を行っている。

このような詩的な言い回しは、空想的でロマンティックに過ぎ、ともすると作曲者の本来の意図から乖離しているようにも見える。しかし近年では、ベートーヴェン自身もこのソナタに「夜」や「月光」のイメージを託していたという新説も浮上している。たとえば第1楽章の3連符のアルペジオはハープに由来する表現であるが、ハープは18世紀以降、セレナードやノクターン用に夜に戸外で奏される楽器でもあった。つまり19世紀初頭の文化人の感覚からすれば、この作品から美しい夜の情景を思い浮かべるのはごく自然だった、ということになる。

この説を採るならば、レルシュタープの言葉が音楽業界にすんなり受け入れられ、1830年代に「月光ソナタ」という愛称が爆発的に普及したのも当然だったといえるだろう。

「盲目の少女」はいつどこから現れたのか

では、「盲目の少女」はいつどこから出現したのだろうか。

筆者がこのたびの調査で発見したもっとも古い出典は、イギリスの女性作家アミーリア・B・エドワーズによる『私の兄弟の妻――ある人生の物語』(1855年刊)である。本作は恋愛模様や陰謀を織り込んだサスペンス調の長編小説であるが、サロンでの歓談のシーンで、メインストーリーとは関係のない客人の雑談として「盲目の少女」のエピソードが登場する。

> 「「もう一度、演奏して下さい、もう一度だけ!」彼(筆者注:ベートーヴェン)は楽器のところへ連れて行かれました。月はカーテンのない窓からまばゆく差し込み、彼の神々しいこうべと堂々たる体躯を照らしていました。「月光に寄せてソナタを即興で弾きましょう!」彼は

冗談めかしてそう言ったのです」

このエピソードは雑談の割には長大で、5ページ以上に及んでいるが、「月夜」「妹が盲目の貧しい兄弟」「ベートーヴェンが即興でソナタを弾く」など、のちの尋常小学校の教科書に登場するエッセンスがひととおり盛り込まれている。

残念ながら、この小説が「盲目の少女」エピソードの歴史上の初出なのかどうかは不明である。だが、本作が刊行された1850年代中盤以降、類似したエピソードが急激に欧米の紙メディアに広がりだし、20世紀前半までその現象が続いたことは確かだ。「偉大な芸術家が下層の不幸な民に施しを与える」という美談は、特に教育業界で人気を博し、青少年向けの朗読教材や読み物コンテンツとして広く採用された。日本では、海外のさまざまな小話を小柳一蔵が集めた『海外遺芳』(1902年刊)のなかで、このエピソードがはじめて紹介されたと考えられている。



『ザ・チルドレン・ペーパー』1896年3月号
「ベートーヴェンと盲目の少女」挿絵

どんな曲か知らなくても構わない!?

興味深いのは、このエピソードが音楽の専門書においては黙殺されていた点である。レルシュタープが提唱した「月光」というワードが、またたく間に音楽業界に広まった現象とは対照的だ。音楽ファンや研究者にとっては、真偽不明な「盲目の少女」のエピソードよりも、ソナタの献呈相手であるジュリエッタ・グイチャルディとベートーヴェンとのロマンスのほうが興味の対象だったのだろう。

それにしても、音楽業界内と外部でなぜこのような乖離が発生したのだろうか。尋常小学国語読本の教員向け指導書に、その答えがひそんでいる。この指導書は、短編『月光の曲』を「藝術家の心境を理解せしめるに好箇の文學的教材である」と定義した上で、以下のような指南を添えている。

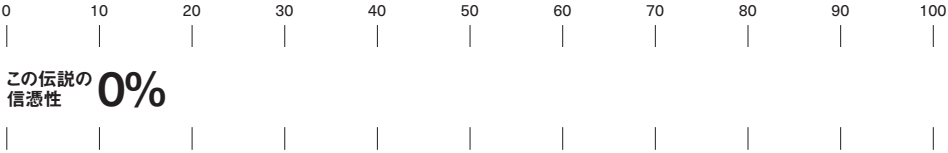
> 「ベートーベンとその友、靴工の兄と妹、これらの人物の、それぞれの場合における心持を十分に児童に理解させるやうに取り扱ふことが極めて大切である。(中略)因に「月光の曲」そのものが、どんなものであるかは、むしろ全然ふれずに、たゞ「立派な有名な音譜」といふくらゐにとゞめておくことが得策であらう」
> (『尋常小学国語読本教授書 巻12』、1924年)

ベートーヴェンを主人公とする物語を理解するにあたって、ベートーヴェンの音楽を知る必要はない。音楽ファンからすると常軌を逸する指導に思えるが、この読本が音楽ではなく国語科目の教材であることを踏まえると腑に落ちる。尋常小学国語読本における教育目標は、19世紀中盤に西洋で誕生した短編ストーリーをいかに「文學的教材」として読解するかであり、

それが創作なのか史実なのかは重要ではなく、また音楽そのものは指導の対象外なのだ。ここに「盲目の少女」伝説の本質がある、といっても過言ではない。

しかし、ベートーヴェンを主人公にした物語に、なぜ架空の「盲目の少女」が必要だったのだろうか。筆者が気にかかったのは、ベートーヴェン自身の難聴について、初期のサスペンス小説においてはごく簡単な説明にとどまり、尋常小学校の教材に至ってはその記述自体が一切登場しない点である。たしかに《月光ソナタ》を書いた時点での彼の病状はまだ軽度であったが、そうだとしても、本来は彼自身が負っているはずの障害がなぜ架空の少女に託されたのだろうか。作中のベートーヴェンは、「見えざるもの(＝月光)を音楽化する天才」という役どころであり、ゆえに彼自身の障害の具体的な描写は作劇上不要と考えられたのかもしれない。だがそうだとしても、本来はベートーヴェンのものであるはずの障害を架空の貧しい少女にそっくり負わせるのは、現代の倫理的な感覚とは相容れない手法である。かように大きな問題をはらんだこの作り話が、21世紀に至って世の中から忘れ去られつつあるのは当然の成り行きといえるだろう。

筆者の検証結果



完全な作り話であるにもかかわらず、教育目的で世の中に広まった

主要参考文献・ウェブサイト

- 『尋常小學國語讀本 卷12』日本書籍、1931年
- 『尋常小学国語読本教授書 巻12』大日本図書、1924年
- *The Children's Paper*, New York, March 1896
- Amelia B. Edwards, *My Brother's Wife: a life-history*, London 1855
- Sarah Clemmens Waltz, *In Defense of Moonlight*, Nebraska 2007

かげはら史帆 | かげはら・しほ

文筆家。著書に『ピアニストは「ファンサ」の原点か――スターとファンの誕生史』『ニジンスキーは銀橋で踊らない』『ベートーヴェンの愛弟子――フェルディナント・リースの数奇なる運命』『ベートーヴェン捏造――名プロデューサーは嘘をつく』。ほか音楽雑誌、文芸誌、イベントプログラム、ウェブメディアに小説、エッセイ、書評、インタビューなどを寄稿。

2026年12月定期公演のプログラムについて

公演企画担当者から

アルゲリッチとデュトワ、ふたりの“ラヴェル愛”

［Aプログラム］には、世界最高峰のピアニスト、**マルタ・アルゲリッチ**と、元夫の**シャルル・デュトワ**が登場。2人が東京でN響のステージに立つのは、30年ぶりとなる。

アルゲリッチにとって**ラヴェル**は、「彼も私のことを気に入っているはず」というほど、運命的な結びつきを自覚する作曲家。若い頃に録音した**《ピアノ協奏曲》**は、代表的名盤としての地位を確立している。一方のデュトワも、ラヴェルへの思い入れでは負けていない。昨年の《ダフニスとクロエ》では、音色のグラデーションの美しさに、思わずため息が漏れた。“ラヴェル愛”あふれる2人の共演を聴き逃すわけにはいくまい。

《三角帽子》は、ラヴェルと親交の深かった**ファリャ**の代表作で、**《第2番》**はバレエ終盤の華やかな音楽を主体に編まれている。スペインの民俗舞曲のリズムやアクセントの処理、鮮やかな色彩感などに、デュトワらしさが表れるだろう。

《幻想交響曲》はデュトワの十八番で、N響とはここぞというタイミングに通算17回も演奏してきた。本人としては、やり尽くした思いもあるようだが、名誉音楽監督と100周年を共に祝うため、敢えて再びお願いした。周囲に迎合することなく、自分の芸術を追求するマエストロの姿勢は、破天荒な音楽を生み出した**ベルリオーズ**に重なる気がしてならない。

デュトワのリズムが導くベートーヴェン

［Cプログラム］の**ベートーヴェン**は、デュトワの最適のレパートリーとは言えないかもしれない。だが《運命》と並んで**《交響曲第7番》**を繰り返し取り上げてきたのは、彼のスタイルを考えれば納得のいくことだ。この曲では、同じ音を畳みかけながら、もっぱらリズムの推進力で音楽が展開されていく。オケのドライブに長けたデュトワの棒は、曲の命であるリズムを損ねることなく、一貫性のある大きな流れを生み出していくことだろう。

デュトワは、小ぶりでウィットに富んだ曲も得意にしているが、**《交響曲第4番》**も、そのカテゴリーに収まる作品だ。かつては《英雄》と《運命》の間の息抜きとして書かれたように言われた時代もあるが、献呈先の貴族の好みに、ベートーヴェンが柔軟に対応したと見るべきだろう。デュトワ持ち前の機動力が生かされた演奏を期待したい。木管が主役となる第3楽章トリオの音色の配合には、マエストロの繊細な感覚が発揮されそうだ。

注目の作曲家による100年記念委嘱作

［Bプログラム］では、チェコの現代作曲家、**スルンカ**に新作を委嘱した。彼の作風の特徴は、白か黒かの二項対立ではなく、その中間に広がるどちらともつかない領域に意識を向けようとしていること。まるでデジタル化社会や、極端な言説がまかり通る世の中へのアンチテーゼのようにも思える。3年前にN響が世界初演した《スーパーオーガニズム》で、“曖昧さ”を象徴するように響いた2台のアコーディオンが、**《煙―チェロとオーケストラのための》**でも使われる。チェロ独奏の**ニコラ・アルトシュテット**は、スルンカの推薦による。現代曲を得意とする名手が、研ぎ澄まされた感性で、出来たての作品のエッセンスを伝えてくれるはずだ。

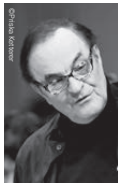
《交響曲第3番「スコットランド」》は、スコットランド室内管の首席指揮者である**マキシム・エメリャニチェフ**にとって、特別な意味を持つ曲であろう。同オケとの録音では、ヴィブラートを抑えた弦が、静かに語り始める。まるでソロ楽器のレチタティーヴォのようだ。この曲は、**メンデルスゾーン**が荒れ果てた礼拝堂を訪れて着想したというが、情景の描写というよりも、それを目にした人の詠嘆が聞こえてくるような歌い回しである。

バロック音楽や**モーツァルト**などの古典は、エメリャニチェフの主要レパートリー。**《歌劇「魔笛」序曲》**の荘重な和音で、コンサートは始まる。

［西川彰一／NHK交響楽団 芸術主幹］

A
11/28 土 6:00pm
11/29 日 2:00pm
※ 12月定期公演Aプログラムは11月に開催いたします。
NHKホール

N響100年特別企画
ファリャ／バレエ組曲「三角帽子」第2番
ラヴェル／ピアノ協奏曲ト長調
ベルリオーズ／幻想交響曲 作品14
指揮：シャルル・デュトワ
ピアノ：マルタ・アルゲリッチ



B
12/10 木 7:00pm
12/11 金 7:00pm
サントリーホール

モーツァルト／歌劇「魔笛」序曲
スルンカ／煙―チェロとオーケストラのための
［NHK交響楽団100年記念委嘱作品／チェコ・フィルハーモニー管弦楽団 国際共同委嘱／世界初演］
メンデルスゾーン／交響曲 第3番イ短調 作品56「スコットランド」
指揮：マキシム・エメリャニチェフ
チェロ：ニコラ・アルトシュテット



C
12/4 金 7:00pm
12/5 土 2:00pm
NHKホール

N響100年特別企画 **ベートーヴェン交響曲全曲演奏4**
ベートーヴェン／交響曲 第4番 変ロ長調 作品60
ベートーヴェン／交響曲 第7番イ長調 作品92
指揮：シャルル・デュトワ



チケットのご案内(定期公演 2026年9月〜2027年6月)

定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10〜52%お得です!(一般料金の場合。ユースチケットでは最大63%お得です。割引率は公演や席種によって異なります)

発売開始日 **(10:00amからの受付)**	年間会員券、シーズン会員券(Autumn)	2026年7月5日[日](定期会員先行)／2026年7月12日[日](一般)
	シーズン会員券(Winter)	2026年10月13日[火](定期会員先行)／2026年10月16日[金](一般)
	シーズン会員券(Spring)	2027年2月10日[水](定期会員先行)／2027年2月14日[日](一般)

料金(税込)

年間会員券		S	A	B	C	D
Aプログラム **Cプログラム** **(各9回)**	一般	¥76,500(¥8,500)	¥65,025(¥7,225)	¥49,725(¥5,525)	¥41,310(¥4,590)	¥32,895(¥3,655)
	ユースチケット	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥23,715(¥2,635)	¥19,503(¥2,167)	¥11,475(¥1,275)
Bプログラム **(3回)**	一般	¥30,600(¥10,200)	¥25,500(¥8,500)	¥20,400(¥6,800)	¥16,575(¥5,525)	¥14,025(¥4,675)
	ユースチケット	¥15,300(¥5,100)	¥12,750(¥4,250)	¥10,200(¥3,400)	¥8,286(¥2,762)	¥7,011(¥2,337)

シーズン会員券		S	A	B	C	D
Aプログラム **Cプログラム** **(各3回)**	一般	¥26,850(¥8,950)	¥22,824(¥7,608)	¥17,454(¥5,818)	¥14,499(¥4,833)	¥11,547(¥3,849)
	ユースチケット	¥13,425(¥4,475)	¥10,740(¥3,580)	¥8,325(¥2,775)	¥6,849(¥2,283)	¥4,029(¥1,343)

(　)内は1公演あたりの単価

1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報でご覧ください。

発売開始日 **(10:00amからの受付)**	9・10・11月	2026年7月22日[水](定期会員先行)／2026年7月26日[日](一般)
	12・1・2月	2026年10月21日[水](定期会員先行)／2026年10月25日[日](一般)
	4・5・6月	2027年2月19日[金](定期会員先行)／2027年2月23日[火・祝](一般)

ユースチケット

29歳以下の方へのお得なチケットです。全席種が一般料金の半額以下、1公演1000円〜で定期公演をお楽しみいただけます。1回券と定期会員券ともにご利用いただけます。料金は各公演の情報でご覧ください。

※ユースチケットはWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。

※初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳しくはN響ホームページをご覧ください。

お申し込み

WEBチケットN響
https://nhkso.pia.jp

N響ガイド｜TEL 0570-02-9502
営業時間:10:00am〜5:00pm
定休日:土・日・祝日

- 東京都内での主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am〜開演時刻まで営業
- 発売初日の土・日・祝日は10:00am〜3:00pmの営業
- 電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

Please follow us on

N響ニュースレター　最新情報をメールでお届けします。
WEBチケットN響の「利用登録」からご登録ください。

2026–27定期公演プログラム

2026 12

A

第2077回
11/28土 6:00pm
11/29日 2:00pm
※12月定期公演Aプログラムは11月に開催いたします。
NHKホール

デュトワ＆アルゲリッチ 四半世紀の時を経てN響で再共演!
N響100年特別企画
ファリャ／バレエ組曲「三角帽子」第2番
ラヴェル／ピアノ協奏曲 ト長調
ベルリオーズ／幻想交響曲 作品14
指揮:シャルル・デュトワ　ピアノ:マルタ・アルゲリッチ

一般	ユースチケット
S ¥17,000	S ¥8,500
A ¥14,500	A ¥7,000
B ¥11,500	B ¥5,500
C ¥9,500	C ¥4,500
D ¥7,500	D ¥3,500
E ¥5,500	E ¥2,500

B

第2079回
12/10木 7:00pm
12/11金 7:00pm
サントリーホール

才人・エメリャニチェフが命を吹き込む 100年記念作と《スコットランド》
モーツァルト／歌劇「魔笛」序曲
スルンカ／煙―チェロとオーケストラのための［NHK交響楽団100年記念委嘱作品／チェコ・フィルハーモニー管弦楽団 国際共同委嘱／世界初演］
メンデルスゾーン／交響曲 第3番 イ短調 作品56「スコットランド」
指揮:マキシム・エメリャニチェフ　チェロ:ニコラ・アルトシュテット

一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

C

第2078回
12/4金 7:00pm
12/5土 2:00pm
NHKホール

極限まで追求された リズムのポテンシャル
N響100年特別企画 **ベートーヴェン交響曲全曲演奏4**
ベートーヴェン／交響曲 第4番 変ロ長調 作品60
ベートーヴェン／交響曲 第7番 イ長調 作品92
指揮:シャルル・デュトワ
※ベートーヴェン《交響曲第9番「合唱つき」》は、2026年末の「ベートーヴェン「第9」演奏会」で演奏予定です(指揮:マレク・ヤノフスキ)。

一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥3,600
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥1,900
E ¥3,300	E ¥1,600

2027 01

A

第2080回
1/16土 6:00pm
1/17日 2:00pm
NHKホール

ルイージ&N響が満を持して挑む マーラー最高峰の交響曲
マーラー／交響曲 第9番 ニ長調
指揮:ファビオ・ルイージ

一般	ユースチケット
S ¥13,000	S ¥6,500
A ¥11,000	A ¥5,200
B ¥8,500	B ¥4,000
C ¥7,000	C ¥3,500
D ¥5,600	D ¥2,000
E ¥3,500	E ¥1,700

B

2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムは
サントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。

C

第2081回
1/22金 7:00pm
1/23土 2:00pm
NHKホール

「デンマークのベートーヴェン」ニルセン最後のシンフォニー
ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏1
ソレンセン／夕暮れの大地(2017)
ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第1番 ハ長調 作品15
ニルセン／交響曲 第6番「シンフォニア・センプリーチェ」
指揮:ファビオ・ルイージ　ピアノ:アレッサンドロ・タヴェルナ

一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥3,600
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥1,900
E ¥3,300	E ¥1,600

2027 02

A

第2082回
2/6土 6:00pm
2/7日 2:00pm
NHKホール

鬼才マナコルダとドイツ語圏音楽 300年の成り行きを俯瞰する
バッハ(ウェーベルン編)／「音楽のささげもの」BWV1079―6声のリチェルカール
マーラー／リュッケルトによる5つの歌
シェーンベルク／室内交響曲 第2番 作品38
シューベルト／交響曲 第7番 ロ短調 D. 759「未完成」
指揮:アントネッロ・マナコルダ　バリトン:アンドレ・シュエン

一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

B

2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムは
サントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。

C

第2083回
2/12金 7:00pm
2/13土 2:00pm
NHKホール

子が光を当てる父とその盟友の名作 そして超新星ピアニスト降臨!
ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏2
シューマン／歌劇「ゲノヴェーヴァ」序曲
ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品19
尾高尚忠／交響詩「蘆屋乙女」作品9
パヌフニク／交響曲 第2番「悲歌」
指揮:尾高忠明　ピアノ:イム・ユンチャン

一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

A NHKホール
土 開場5:00pm 開演6:00pm
日 開場1:00pm 開演2:00pm

B サントリーホール
木 開場6:20pm 開演7:00pm
金 開場6:20pm 開演7:00pm

C NHKホール
金 開場6:00pm 開演7:00pm
土 開場1:00pm 開演2:00pm

2027 04

A

第2084回
4/10 土 6:00pm
4/11 日 2:00pm
NHKホール

いざ、ルイージと行かん! アルプスという名の「人生」を歩む旅へ
メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64
R. シュトラウス／アルプス交響曲 作品64

指揮:ファビオ・ルイージ
ヴァイオリン:ジェームズ・エーネス

	一般	ユースチケット
S	¥13,000	¥6,500
A	¥11,000	¥5,200
B	¥8,500	¥4,000
C	¥7,000	¥3,500
D	¥5,600	¥2,000
E	¥3,500	¥1,700

B

2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムは
サントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。

C

第2085回
4/23 金 7:00pm
4/24 土 2:00pm
NHKホール

若きカリスマ エリム・チャンが放つ圧倒的な躍動感
ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏3
ドヴォルザーク／交響詩「真昼の魔女」作品108
ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第3番 ハ短調 作品37
チン・ウンスク／スビト・コン・フォルツァ
ショスタコーヴィチ／交響曲 第9番 変ホ長調 作品70

指揮:エリム・チャン　ピアノ:アリス・紗良・オット

	一般	ユースチケット
S	¥10,000	¥5,000
A	¥8,500	¥4,000
B	¥6,500	¥3,100
C	¥5,400	¥2,550
D	¥4,300	¥1,500
E	¥2,200	¥1,000

2027 05

A

第2086回
5/8 土 6:00pm
5/9 日 2:00pm
NHKホール

パーヴォのイチ押し! 北欧・珠玉の名品たち
グリーグ／ピアノ協奏曲 イ短調 作品16
ステンハンマル／交響曲 第2番 ト短調 作品34

指揮:パーヴォ・ヤルヴィ
ピアノ:デニス・コジュヒン

	一般	ユースチケット
S	¥12,000	¥6,000
A	¥10,000	¥5,000
B	¥8,000	¥3,600
C	¥6,500	¥3,250
D	¥5,500	¥1,900
E	¥3,300	¥1,600

B

2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムは
サントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。

C

第2087回
5/21 金 7:00pm
5/22 土 2:00pm
NHKホール

こだわりのプログラムを携え 名匠ケント・ナガノ N響を初指揮
ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏4
リュリ／バレエ音楽「町人貴族」(抜粋)
ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第4番 ト長調 作品58
R. シュトラウス／組曲「町人貴族」作品60

指揮:ケント・ナガノ
ピアノ:ティル・フェルナー

	一般	ユースチケット
S	¥11,000	¥5,500
A	¥9,500	¥4,500
B	¥7,600	¥3,500
C	¥6,000	¥2,800
D	¥5,000	¥1,800
E	¥3,000	¥1,400

2027 06

A

第2088回
6/5 土 6:00pm
6/6 日 2:00pm
NHKホール

ソヒエフ&N響の初ブルックナーはワーグナーに捧げられた意欲作
モーツァルト／交響曲 第35番 ニ長調 K. 385「ハフナー」
ブルックナー／交響曲 第3番 ニ短調「ワーグナー」(第3稿／1889)

指揮:トゥガン・ソヒエフ

	一般	ユースチケット
S	¥12,000	¥6,000
A	¥10,000	¥5,000
B	¥8,000	¥3,600
C	¥6,500	¥3,250
D	¥5,500	¥1,900
E	¥3,300	¥1,600

B

2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムは
サントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。

C

第2089回
6/18 金 7:00pm
6/19 土 2:00pm
NHKホール

若き大物がN響と正面から取り組む 本格的独壇プログラム
ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏5
ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 作品73「皇帝」
R. シュトラウス／交響詩「英雄の生涯」作品40

指揮:トーマス・グッガイス
ピアノ:キリル・ゲルシュタイン

	一般	ユースチケット
S	¥11,000	¥5,500
A	¥9,500	¥4,500
B	¥7,600	¥3,500
C	¥6,000	¥2,800
D	¥5,000	¥1,800
E	¥3,000	¥1,400

(料金はすべて税込)

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

速報 2027–28定期公演プログラム（2027年9月～2028年6月）

2027 09

A
第2090回
9/11 土 6:00pm
9/12 日 2:00pm
NHKホール

ベートーヴェン没後200年
ベートーヴェン／ミサ・ソレムニス ニ長調 作品123

指揮：ファビオ・ルイージ
ソプラノ：レイチェル・ウィリス・ソレンセン　メゾ・ソプラノ：カトリオーナ・モリソン
テノール：サイミール・ピルグ　バス：フランツ・ヨーゼフ・ゼーリヒ　合唱：東京オペラシンガーズ

B
第2092回
9/23 木 祝 7:00pm
9/24 金 7:00pm
サントリーホール

グラズノフ／ヴァイオリン協奏曲 イ短調 作品82
ラフマニノフ／交響曲 第2番 ホ短調 作品27

指揮：ロビン・ティチアーティ
ヴァイオリン：ヴィルデ・フラング

C
第2091回
9/17 金 7:00pm
9/18 土 2:00pm
NHKホール

ブラームス／ピアノ協奏曲 第1番 ニ短調 作品15
ブラームス／交響曲 第4番 ホ短調 作品98

指揮：ファビオ・ルイージ
ピアノ：エレーヌ・グリモー

2027 10

A
第2093回
10/16 土 6:00pm
10/17 日 2:00pm
NHKホール

ブルックナー／交響曲 第8番 ハ短調(ハース版)

指揮：下野竜也

B
第2095回
10/28 木 7:00pm
10/29 金 7:00pm
サントリーホール

モーツァルト／ピアノ協奏曲 第27番 変ロ長調 K. 595
ベートーヴェン／交響曲 第3番 変ホ長調 作品55「英雄」

指揮：マンフレート・ホーネック
ピアノ：河村尚子

C
第2094回
10/22 金 7:00pm
10/23 土 2:00pm
NHKホール

スーク／幻想曲 作品24*
ドヴォルザーク／ロマンス ヘ短調 作品11*
チャイコフスキー／交響曲 第5番 ホ短調 作品64

指揮：マンフレート・ホーネック
ヴァイオリン：ユリア・フィッシャー*

2027 11

A
第2096回
11/6 土 6:00pm
11/7 日 2:00pm
NHKホール

ウェーバー／歌劇「魔弾の射手」序曲
細川俊夫／ピアノ協奏曲［NHK交響楽団、ウィーン交響楽団、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団 国際共同委嘱作品／日本初演］
フランク／交響詩「呪われた狩人」
マルティヌー／交響曲 第6番「交響的幻想曲」

指揮：ペトル・ポペルカ　ピアノ：藤田真央

B
第2098回
11/18 木 7:00pm
11/19 金 7:00pm
サントリーホール

シベリウス／交響曲 第6番 ニ短調 作品104
シベリウス／2つのセレナード 作品69*
シベリウス／2つのユモレスク 作品87*
シベリウス／4つのユモレスク 作品89*
シベリウス／交響曲 第7番 ハ長調 作品105

指揮：ユッカ・ペッカ・サラステ　ヴァイオリン：金川真弓*

C
第2097回
11/12 金 7:00pm
11/13 土 2:00pm
NHKホール

ワーグナー（マゼール編）／言葉のない「指環」―「ニーベルングの指環」管弦楽曲集

指揮：ペトル・ポペルカ

A	**NHKホール** 土 開場5:00pm 開演6:00pm 日 開場1:00pm 開演2:00pm	**B**	**サントリーホール** 木 開場6:20pm 開演7:00pm 金 開場6:20pm 開演7:00pm
C	**NHKホール** 金 開場6:00pm 開演7:00pm 土 開場1:00pm 開演2:00pm		

2027 12

A 第2099回
11/27(土) 6:00pm
11/28(日) 2:00pm
※12月定期公演Aプログラムは11月に開催いたします。
NHKホール

ブラームス／ドイツ・レクイエム 作品45

指揮:ファビオ・ルイージ
ソプラノ:ユリア・クライター　バリトン:マティアス・ゲルネ　合唱:新国立劇場合唱団
合唱指揮:冨平恭平

B 第2101回
12/9(木) 7:00pm
12/10(金) 7:00pm
サントリーホール

シェーンベルク／ピアノ協奏曲 作品42*
ガーシュウィン／ラプソディー・イン・ブルー*
シェーンベルク／浄められた夜 作品4

指揮:ファビオ・ルイージ
ピアノ:イノン・バルナタン*

C 第2100回
12/3(金) 7:00pm
12/4(土) 2:00pm
NHKホール

ハイドン／交響曲 第49番 ヘ短調 Hob. I-49「受難」
ブルックナー／交響曲 第7番 ホ長調(ノヴァーク版)

指揮:ファビオ・ルイージ

2028 01

A 第2102回
1/15(土) 6:00pm
1/16(日) 2:00pm
NHKホール

ハイドン／交響曲 第103番 変ホ長調 Hob. I-103「太鼓連打」
マーラー／交響曲 第1番 ニ長調「巨人」

指揮:トゥガン・ソヒエフ

B 第2104回
1/27(木) 7:00pm
1/28(金) 7:00pm
サントリーホール

シューベルト／「ロザムンデ」序曲 D 644
フンメル／ファゴット協奏曲 ヘ長調
ブラームス／交響曲 第2番 ニ長調 作品73

指揮:トゥガン・ソヒエフ
ファゴット:ソフィー・デルヴォー

C 第2103回
1/21(金) 7:00pm
1/22(土) 2:00pm
NHKホール

ラフマニノフ／パガニーニの主題による狂詩曲 作品43*
ショスタコーヴィチ／交響曲 第10番 ホ短調 作品93

指揮:トゥガン・ソヒエフ
ピアノ:ルーカス・シュテルナート*

2028 02

A 第2105回
2/5(土) 6:00pm
2/6(日) 2:00pm
NHKホール

メンデルスゾーン／序曲「フィンガルの洞窟」作品26
メンデルスゾーン／交響曲 第1番 ハ短調 作品11
メンデルスゾーン(ヴィトマン編)／アンダンテ―クラリネット、弦楽オーケストラ、ハープ、チェレスタのための(クラリネット・ソナタ―第2楽章)
メンデルスゾーン／交響曲 第5番 ニ短調 作品107「宗教改革」

指揮・クラリネット:イェルク・ヴィトマン

B 第2107回
2/17(木) 7:00pm
2/18(金) 7:00pm
サントリーホール

ラヴェル／組曲「クープランの墓」
ブリテン／テノール、ホルン、弦楽のためのセレナード 作品31
ヴォーン・ウィリアムズ／交響曲 第5番 ニ長調

指揮:ニコラス・カーター
テノール:ジョナ・ホスキンス　ホルン:今井仁志(N響首席ホルン奏者)

C 第2106回
2/11(金・祝) 7:00pm
2/12(土) 2:00pm
NHKホール

バルトーク／ヴァイオリン協奏曲 第2番
シベリウス／交響詩「吟遊詩人」作品64
シベリウス／交響曲 第3番 ハ長調 作品52

指揮:ディマ・スロボデニューク
ヴァイオリン:服部百音

速報 2027–28定期公演プログラム（2027年9月～2028年6月）

2028 04

A
第2108回
4/8土 6:00pm
4/9日 2:00pm
NHKホール

バーバー／ヴァイオリン協奏曲 作品14*
コリリャーノ／テネシーの歌◆**
ブリテン／シンフォニア・ダ・レクイエム 作品20
アダムズ／ドクター・アトミック・シンフォニー
指揮：デーヴィッド・ロバートソン
ヴァイオリン：ジョシュア・ベル*　ソプラノ：ラリサ・マルティネス◆

B
第2110回
4/20木 7:00pm
4/21金 7:00pm
サントリーホール

ベートーヴェン／12のコントルダンス WoO 14
モーツァルト／交響曲 第40番 ト短調 K. 550
シューベルト／交響曲 第5番 変ロ長調 D 485
指揮：ネーメ・ヤルヴィ

C
第2109回
4/14金 7:00pm
4/15土 2:00pm
NHKホール

ハイドン／ピアノ協奏曲 ニ長調 Hob. XVIII-11
チャイコフスキー／交響曲「マンフレッド」作品58
指揮：ネーメ・ヤルヴィ
ピアノ：ヤーン・オッツ

2028 05

A
第2111回
5/20土 6:00pm
5/21日 2:00pm
NHKホール

ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第3番 ニ短調 作品30
チャイコフスキー／交響曲 第6番 ロ短調 作品74「悲愴」
指揮：ワレリー・ポリャンスキー
ピアノ：ドミートリ・マスレーエフ

B
第2112回
5/25木 7:00pm
5/26金 7:00pm
サントリーホール

ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第3番 ハ短調 作品37
フランツ・シュミット／交響曲 第2番 変ホ長調
指揮：ファビオ・ルイージ
ピアノ：ベアトリーチェ・ラナ

C
第2113回
6/2金 7:00pm
6/3土 2:00pm
※5月定期公演Cプログラムは6月に開催いたします。
NHKホール

マーラー／交響詩「葬礼」
マーラー／交響曲「大地の歌」*
指揮：ファビオ・ルイージ
アルト：ヴィープケ・レームクール*　テノール：ベンヤミン・ブルンス*

2028 06

A
第2114回
6/10土 6:00pm
6/11日 2:00pm
NHKホール

モーツァルト／ピアノ協奏曲 第22番 変ホ長調 K. 482
リムスキー・コルサコフ／交響組曲「シェエラザード」作品35
指揮：シャルル・デュトワ
ピアノ：小菅 優

B
第2115回
6/15木 7:00pm
6/16金 7:00pm
サントリーホール

コダーイ／ガランタ舞曲
ショスタコーヴィチ／チェロ協奏曲 第1番 変ホ長調 作品107
サン・サーンス／交響曲 第3番 ハ短調 作品78「オルガンつき」
指揮：シャルル・デュトワ
チェロ：上野通明

C
第2116回
6/23金 7:00pm
6/24土 2:00pm
NHKホール

ベルリオーズ／交響曲「イタリアのハロルド」*
レスピーギ／交響詩「ローマの噴水」
レスピーギ／交響詩「ローマの松」
指揮：シャルル・デュトワ
ヴィオラ：村上淳一郎（N響首席ヴィオラ奏者）*

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。
※料金、発売日等チケットの詳細は2027年4月上旬に発表予定です。

特別公演

12/17木 7:00pm
12/18金 7:00pm
12/19土 2:00pm
12/20日 2:00pm
12/22火 7:00pm

ベートーヴェン「第9」演奏会

NHKホール

N響100年特別企画 **ベートーヴェン交響曲全曲演奏5**

指揮:マレク・ヤノフスキ　ソプラノ:森谷真理　メゾ・ソプラノ:杉山由紀　テノール:村上公太
バス・バリトン:トマシュ・コニエチュニー　合唱:東京オペラシンガーズ　合唱指揮:冨平恭平
ベートーヴェン／交響曲 第9番 ニ短調 作品125「合唱つき」

料金(税込):一般｜S席17,000円 A席13,500円 B席10,000円 C席7,500円 D席5,000円
ユースチケット(29歳以下)｜S席8,500円 A席6,750円 B席5,000円 C席3,750円 D席2,500円
※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行｜9月1日(火)10:00am
一般｜9月6日(日)10:00am

※12月22日はNHK／NHK厚生文化事業団主催のチャリティーコンサートです。プログラムは他の日程と同一です。お問合せ:NHK厚生文化事業団 TEL(03)3476-5955

主催:NHK・NHK交響楽団／NHK・NHK厚生文化事業団(22日公演のみ)
協賛:みずほ証券株式会社／はごろもフーズ株式会社／株式会社明電舎

12/23水 7:00pm｜**かんぽ生命 presents N響第九 Special Concert**

サントリーホール

N響100年特別企画 **ベートーヴェン交響曲全曲演奏5**

指揮:マレク・ヤノフスキ　ソプラノ:森谷真理　メゾ・ソプラノ:杉山由紀　テノール:村上公太
バス・バリトン:トマシュ・コニエチュニー　合唱:東京オペラシンガーズ　合唱指揮:冨平恭平　オルガン:勝山雅世＊
バッハ／「高き天よりわれは来れり」によるカノン風変奏曲 BWV 769*
ベートーヴェン／交響曲 第9番 ニ短調 作品125「合唱つき」

料金(税込):一般｜S席20,000円 A席16,500円 B席13,000円 C席9,000円
ユースチケット(29歳以下)｜S席10,000円 A席8,200円 B席6,500円 C席4,500円
※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行｜9月1日(火)10:00am
一般｜9月6日(日)10:00am

主催:NHK交響楽団　特別協賛:株式会社かんぽ生命保険

2027/1/10 日 3:00pm
2027/1/11 月祝 3:00pm

創立100年記念 N響ニューイヤーコンサート

NHKホール

指揮:ファビオ・ルイージ　ソプラノ:カミラ・ニールンド*　テノール:クラウス・フロリアン・フォークト◆

ワーグナー／歌劇「リエンチ」序曲
ワーグナー／楽劇「ワルキューレ」―ジークムントの愛の歌「冬の嵐は過ぎ去り」◆
ワーグナー／楽劇「ワルキューレ」―「きみこそは春」*
ワーグナー／歌劇「ローエングリン」―聖杯の物語「はるかな国に」◆
ワーグナー／歌劇「タンホイザー」―「おごそかなこの広間よ」*
ワーグナー／楽劇「トリスタンとイゾルデ」―「愛の夜よ、とばりを降ろせ」*◆
J. シュトラウスII世／喜歌劇「こうもり」―序曲、チャールダーシュ「ふるさとの調べよ」*
レハール／喜歌劇「ほほえみの国」―「きみはわが心のすべて」◆
レハール／喜歌劇「メリー・ウィドー」―「ヴィリアの歌」*
カールマーン／喜歌劇「伯爵夫人マリーツァ」―「ウィーンによろしく」◆
J. シュトラウスII世／皇帝円舞曲 作品437
レハール／喜歌劇「ほほえみの国」―「私たちの心に誰が愛を沈めたのか」*◆

料金(税込):一般｜S席15,000円 A席12,000円 B席9,500円 C席7,500円 D席6,000円
ユースチケット(29歳以下)｜S席7,500円 A席6,000円 B席4,750円 C席3,750円 D席3,000円
※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行｜9月1日(火)10:00am
一般｜9月6日(日)10:00am

主催:NHK／NHK交響楽団

2027/2/20 土 3:00pm
2027/2/21 日 2:00pm

初演300年記念《マタイ受難曲》 指揮 トン・コープマン

NHKホール

指揮:トン・コープマン　福音史家(テノールソロ兼):ティルマン・リヒディ　イエス(バス・バリトン):クラウス・メルテンス
ソプラノ:森 麻季　カウンターテナー:マールテン・エンヘルチェス　バス:ヤスパー・スフェッペ
ピラト(バリトン):ハンス・ウェイエルス　合唱:アムステルダム・バロック合唱団　児童合唱:東京少年少女合唱隊
※当初発表より、配役の変更および出演者の追加が生じています。

バッハ／マタイ受難曲 BWV 244(日本語字幕付き)

料金(税込):一般｜S席15,000円 A席12,000円 B席9,500円 C席7,500円 D席6,000円
ユースチケット(29歳以下)｜S席7,500円 A席6,000円 B席4,750円 C席3,750円 D席3,000円
※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行｜10月21日(水)10:00am
一般｜10月25日(日)10:00am

主催:NHK／NHK交響楽団

2/24㊌ 7:00pm｜N響大河ドラマ＆名曲コンサート

すみだトリフォニーホール

指揮:下野竜也　特別ゲスト:高橋英樹(俳優)
ソプラノ:川越未晴　合唱:慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団・女声合唱団　司会:田添菜穂子

［第1部　大河ドラマ編］
武田信玄(1988／山本直純)　西郷どん(2018／富貴晴美)　篤姫(2008／吉俣 良)　八重の桜(2013／坂本龍一)
花燃ゆ(2015／川井憲次)　どうする家康(2023／稲本 響)　江〜姫たちの戦国〜(2011／吉俣 良)
赤穂浪士(1964／芥川也寸志)　べらぼう〜蔦重栄華乃夢噺〜(2025／ジョン・グラム)　逆賊の幕臣(2027)

［第2部　「河」「川」にちなんだクラシック名曲選］
ムソルグスキー(ショスタコーヴィチ編)／歌劇「ホヴァンシチナ」―前奏曲「モスクワ川の夜明け」
J. シュトラウスII世／ポルカ・フランセーズ「ネヴァ川」作品288
シベリウス／交響詩「4つの伝説」作品22―「トゥオネラの白鳥」
J. シュトラウスI世／ワルツ「ローレライ・ラインの調べ」作品154
ビゼー／「アルルの女」組曲 第2番―「ファランドール」

料金(税込):一般｜S席13,000円 A席11,000円 B席8,000円 C席5,000円
ユースチケット(29歳以下)｜S席6,500円 A席5,500円 B席4,000円 C席2,500円
※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行｜11月20日(金)10:00am
一般｜11月24日(火)10:00am

主催:NHK／NHK交響楽団

特別公演 東京芸術劇場シリーズ｜2027年4〜6月｜木 7:00pm 金 7:00pm

2027/4/15木 7:00pm
2027/4/16金 7:00pm
東京芸術劇場

指揮:ファビオ・ルイージ　チェロ:辻本 玲＊
フランツ・シュミット／歌劇「ノートルダム」―「間奏曲と謝肉祭の音楽」
ヒンデミット／バレエ組曲「気高い幻想」
R. シュトラウス／交響詩「ドン・キホーテ」作品35＊

2027/5/13木 7:00pm
2027/5/14金 7:00pm
東京芸術劇場

指揮:沖澤のどか　ハープ:早川りさこ
ドビュッシー／牧神の午後への前奏曲
ランサン／ハープと管弦楽のための田園協奏曲
タイユフェール／小組曲
ラヴェル／バレエ組曲「ダフニスとクロエ」第1番、第2番

2027/6/10木 7:00pm
2027/6/11金 7:00pm
東京芸術劇場

指揮:トゥガン・ソヒエフ　オーボエ:中村周平　クラリネット:松本健司　ファゴット:宇賀神広宣　ホルン:今井仁志
プロコフィエフ／古典交響曲 作品25
モーツァルト／4つの管楽器と管弦楽のための協奏交響曲 変ホ長調 K. 297b
ストラヴィンスキー／バレエ音楽「春の祭典」

料金（税込）：セット券｜一般｜S席29,400円 A席24,600円 B席19,500円 C席15,900円
セット券｜ユースチケット（29歳以下）｜S席14,700円 A席12,300円 B席9,600円 C席7,800円
1回券｜一般｜S席12,000円 A席10,000円 B席8,000円 C席6,500円
1回券｜ユースチケット（29歳以下）｜S席6,000円 A席5,000円 B席4,000円 C席3,200円
※定期会員は一般料金の10%割引（ただしセット券はのぞく）

チケット発売日：［セット券］Bプログラム定期会員先行｜11月24日（火）10:00am
N響定期会員先行｜11月28日（土）10:00am
一般｜12月2日（水）10:00am
［1回券］ N響定期会員先行｜12月16日（水）10:00am
一般｜12月20日（日）10:00am

主催:NHK／NHK交響楽団

お申し込み
WEBチケットN響 | **https://nhkso.pia.jp**
N響ガイド｜**TEL 0570-02-9502**
営業時間：10:00am〜5:00pm
定休日：土・日・祝日
●東京都内での主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am〜開演時刻まで営業
●発売初日の土・日・祝日は10:00am〜3:00pmの営業
●電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

各地の公演

11/22日 3:00pm | NHK音楽祭2026

NHKホール

指揮:トゥガン・ソヒエフ　ピアノ:アレクサンドル・カントロフ
ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18
チャイコフスキー／バレエ音楽「くるみ割り人形」作品71（ソヒエフ・セレクション）
主催:NHK／NHKプロモーション　共催:NHK交響楽団　お問合せ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

1/7木 7:00pm | 創立100年記念 N響ニューイヤーコンサート 大阪公演

ザ・シンフォニーホール

指揮:ファビオ・ルイージ　ソプラノ:カミラ・ニールンド★　テノール:クラウス・フロリアン・フォークト◆
ワーグナー／歌劇「リエンチ」序曲、楽劇「ワルキューレ」―ジークムントの愛の歌「冬の嵐は過ぎ去り」◆、
楽劇「ワルキューレ」―「きみこそは春」★、歌劇「ローエングリン」―聖杯の物語「はるかな国に」◆、
歌劇「タンホイザー」―「おごそかなこの広間よ」★、楽劇「トリスタンとイゾルデ」―「愛の夜よ、とばりを降ろせ」★◆
J. シュトラウスII世／喜歌劇「こうもり」―序曲、チャールダーシュ「ふるさとの調べよ」★
レハール／喜歌劇「ほほえみの国」―「きみはわが心のすべて」◆
レハール／喜歌劇「メリー・ウィドー」―「ヴィリアの歌」★
カールマーン／喜歌劇「伯爵夫人マリーツァ」―「ウィーンによろしく」◆
J. シュトラウスII世／皇帝円舞曲 作品437
レハール／喜歌劇「ほほえみの国」―「私たちの心に誰が愛を沈めたのか」★◆
主催:NHK大阪放送局／NHK交響楽団　お問合せ:NHK大阪ホール NHKイベントガイド TEL(06)6947-5000

1/27水 7:00pm | 2027都民音楽フェスティバル オーケストラ・シリーズNo. 58 NHK交響楽団

東京芸術劇場

指揮:パスカル・ロフェ　ピアノ:小林愛実
ストラヴィンスキー／組曲「プルチネッラ」
ラヴェル／ピアノ協奏曲 ト長調
ブラームス／大学祝典序曲 作品80
ブラームス／ハイドンの主題による変奏曲 作品56a
主催・お問合せ:(公社)日本演奏連盟 TEL(03)3539-5131

1/29金 7:00pm | NHK交響楽団演奏会 宮崎公演

メディキット県民文化センター（宮崎県立芸術劇場） アイザックスターンホール

出演者・曲目は1月27日と同じ
主催:UMKテレビ宮崎　お問合せ:テレビ宮崎 事業部 TEL(0985)31-5131

1/30土 4:30pm｜NHK交響楽団演奏会 大分公演

iichiko総合文化センター iichikoグランシアタ

出演者・曲目は1月27日と同じ

主催:NHK大分放送局／NHK交響楽団　お問合せ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

1/31日 4:00pm｜NHK交響楽団演奏会 熊本公演

市民会館シアーズホーム夢ホール 大ホール

出演者・曲目は1月27日と同じ

主催:NHK熊本放送局／NHK交響楽団　お問合せ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

2/1月 7:00pm｜久留米シティプラザ開館10周年記念 NHK交響楽団 久留米公演

久留米シティプラザ ザ・グランドホール

出演者・曲目は1月27日と同じ

主催・お問合せ:久留米シティプラザ(久留米市) TEL(0942)36-3000

2/25木 7:00pm｜NHK交響楽団パルテノン多摩演奏会―大河ドラマ テーマ曲＆名曲選―

パルテノン多摩 大ホール

指揮:下野竜也　ソプラノ:川越未晴　司会:田添菜穂子

[第1部　大河ドラマ編]
武田信玄(1988／山本直純)　西郷どん(2018／富貴晴美)　篤姫(2008／吉俣 良)　八重の桜(2013／坂本龍一)
花燃ゆ(2015／川井憲次)　どうする家康(2023／稲本 響)　江～姫たちの戦国～(2011／吉俣 良)
赤穂浪士(1964／芥川也寸志)　べらぼう～蔦重栄華乃夢噺～(2025／ジョン・グラム)　逆賊の幕臣(2027)

[第2部　「河」「川」にちなんだクラシック名曲選]
ムソルグスキー(ショスタコーヴィチ編)／歌劇「ホヴァンシチナ」―前奏曲「モスクワ川の夜明け」
J. シュトラウスII世／ポルカ・フランセーズ「ネヴァ川」作品288
シベリウス／交響詩「4つの伝説」作品22―「トゥオネラの白鳥」
J. シュトラウスI世／ワルツ「ローレライ・ラインの調べ」作品154
ビゼー／「アルルの女」組曲 第2番―「ファランドール」

主催:パルテノン多摩共同事業体　お問合せ:パルテノン多摩 TEL(042)376-8181

2/27土 4:00pm｜N響大河ドラマ＆名曲コンサート 静岡公演

静岡市清水文化会館マリナート

出演者・曲目は2月25日と同じ

主催:NHK静岡放送局／NHK交響楽団　お問合せ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

2/28日 3:00pm　白河文化交流館コミネス開館10周年記念事業「N響大河ドラマ名曲コンサート」

白河文化交流館コミネス

出演者・曲目は2月25日と同じ

主催:白河文化交流館コミネス(指定管理者NPO法人カルチャーネットワーク)　お問合せ:白河文化交流館コミネス事業課 TEL(0248)23-5300

3/13土 5:00pm｜NHK交響楽団 in ICHIKAWA

市川市文化会館 大ホール

指揮:ヴァレンティン・ウリューピン　ピアノ:務川慧悟

ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 作品73「皇帝」

チャイコフスキー／交響曲 第5番 ホ短調 作品64

主催・お問合せ:(公財)市川市文化振興財団 TEL(047)379-5111

3/14日 4:00pm｜The Symphony Hall 開館45周年記念 NHK交響楽団 大阪特別公演

ザ・シンフォニーホール

出演者・曲目は3月13日と同じ

主催:(株)ザ・シンフォニーホール　お問合せ:ザ・シンフォニー チケットセンター TEL(06)6453-2333

3/15月 6:30pm｜THEATRE MAdo 開館記念事業 NHK交響楽団 丸亀特別公演

シアターマド(丸亀市民会館) 大ホール

出演者・曲目は3月13日と同じ

主催:(公財)丸亀市福祉事業団　お問合せ:シアターマド(丸亀市民会館) TEL(0877)89-5877

オーチャード定期

横浜みなとみらいホール 大ホール

11/23月祝 3:30pm

出演者・曲目は11月22日と同じ

4/29木祝 3:30pm

指揮:エリム・チャン　ピアノ:鈴木愛美

チャイコフスキー／幻想序曲「ロメオとジュリエット」

チャイコフスキー／ピアノ協奏曲 第1番 変ロ短調 作品23

チャイコフスキー／バレエ音楽「白鳥の湖」作品20―「情景」「ワルツ」「小さい白鳥の踊り」「オデットと王子のパ・ダクシオン」「フィナーレの情景」

主催・お問合せ:Bunkamura TEL(03)3477-3244

特別支援・特別協力・賛助会員
Corporate Membership

特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役 社長兼CEO ｜ 間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長 ｜ 中島 篤
株式会社 みずほ銀行	頭取 ｜ 加藤勝彦
公益財団法人 渋谷育英会	理事長 ｜ 小丸成洋
東日本旅客鉄道株式会社	代表取締役社長 ｜ 喜勢陽一
NTT東日本株式会社	代表取締役社長 ｜ 澁谷直樹
東京海上ホールディングス株式会社	取締役社長 グループCEO ｜ 小池昌洋
株式会社ポケモン	代表取締役社長 ｜ 石原恒和

特別協力

BMWジャパン	代表取締役社長 ｜ 上野金太郎
全日本空輸株式会社	代表取締役社長 ｜ 平澤寿一
ヤマハ株式会社	代表執行役社長 ｜ 山浦 敦
ぴあ株式会社	代表取締役社長 ｜ 矢内 廣

賛助会員

- 常陸宮
- ㈱アートレイ
  代表取締役 ｜ 小森活美
- ㈱アイシン
  取締役社長 ｜ 吉田守孝
- ㈱アインホールディングス
  代表取締役社長 ｜ 大谷喜一
- 葵設備工事㈱
  代表取締役社長 ｜ 安藤正明
- ㈱あ佳音
  代表取締役社長 ｜ 遠山信之
- AXLBIT㈱
  代表取締役 ｜ 長谷川章博
- アサヒグループホールディングス㈱
  代表執行役社長Group CEO｜勝木敦志
- ㈱朝日工業社
  代表取締役社長 ｜ 髙須康有
- 朝日信用金庫
  理事長 ｜ 伊藤康博
- 有限責任 あずさ監査法人
  理事長 ｜ 山田裕行
- アットホーム㈱
  代表取締役社長 ｜ 鶴森康史
- イーソリューションズ㈱
  代表取締役社長 ｜ 佐々木経世
- EY新日本有限責任監査法人
  理事長 ｜ 松村洋季
- ㈱井口一世
  代表取締役 ｜ 井口一世
- 池上通信機㈱
  代表取締役社長 ｜ 清森洋祐
- ㈠財ITOH
  代表理事 ｜ 伊東忠俊
- 井村屋グループ㈱
  取締役社長 ｜ 大西安樹
- ㈲IL VIOLINO MAGICO
  代表取締役 ｜ 山下智之
- ㈱インターネットイニシアティブ
  代表取締役 会長執行役員 ｜ 鈴木幸一
- 内 聖美
- 内山貴史
- 永和不動産㈱
  代表取締役 ｜ 青井 修
- SMBC日興証券㈱
  代表取締役社長 ｜ 吉岡秀二
- ㈱NHKアート
  代表取締役社長 ｜ 石原 勉
- NHK営業サービス㈱
  代表取締役社長 ｜ 手島一宏
- ㈱NHKエデュケーショナル
  代表取締役社長 ｜ 有吉伸人
- ㈱NHKエンタープライズ
  代表取締役社長 ｜ 有吉伸人
- ㈻NHK学園
  理事長 ｜ 荒木美弥子
- ㈱NHKグローバルメディアサービス
  代表取締役社長 ｜ 松岡 烈
- ㈱NHK出版
  代表取締役社長 ｜ 江口貴之

・㈱NHKテクノロジーズ
代表取締役社長｜山口太一

・㈱NHKビジネスクリエイト
代表取締役社長｜椿 健一郎

・㈱NHKプロモーション
代表取締役社長｜見邨俊一

・NGK㈱
代表取締役社長｜小林 茂

・㈱NTTドコモ
代表取締役社長｜前田義晃

・㈱NTTファシリティーズ
代表取締役社長｜川口 晋

・荏原冷熱システム㈱
代表取締役｜加藤恭一

・MNインターファッション㈱
代表取締役社長｜吉本一心

・㈱エレトク
代表取締役｜間部惠造

・大崎電気工業㈱
代表取締役会長｜渡辺佳英

・㈱大塚商会
代表取締役社長｜大塚裕司

・大塚ホールディングス㈱
代表取締役社長兼CEO｜井上 眞

・㈱大林組
代表取締役社長｜佐藤俊美

・オールニッポンヘリコプター㈱
代表取締役社長｜加藤幸洋

・岡崎悦子

・岡崎耕治

・小田急電鉄㈱
取締役社長｜鈴木 滋

・陰山建設㈱
代表取締役｜陰山正弘

・鹿島建設㈱
代表取締役社長｜桐生雅文

・㈱加藤電気工業所
代表取締役｜加藤浩章

・㈱金子製作所
代表取締役｜金子晴房

・カルチュア・エンタテインメント グループ㈱
代表取締役 社長執行役員｜中西一雄

・㈱関電工
取締役社長｜田母神博文

・㈱かんぽ生命保険
取締役兼代表執行役社長｜大西 徹

・キッコーマン㈱
代表取締役社長CEO｜中野祥三郎

・㈱KiteRa
代表取締役 執行役員 CEO｜植松隆史

・㈱教育芸術社
代表取締役｜市川かおり

・㈱共栄サービス
代表取締役｜半沢治久

・㈱共同通信会館
代表取締役専務｜小潤敏郎

・㈳共同通信社
社長｜沢井俊光

・キリンホールディングス㈱
代表取締役会長CEO｜磯崎功典

・㈻国立音楽大学
理事長｜重盛次正

・京王電鉄㈱
代表取締役社長 社長執行役員
都村智史

・京成電鉄㈱
代表取締役社長 社長執行役員
天野貴夫

・KDDI㈱
代表取締役社長CEO｜松田浩路

・㈹社団 恒仁会
理事長｜伊藤恒道

・㈱構造計画研究所ホールディングス
代表執行役｜服部正太

・コグニティブリサーチラボ㈱
代表取締役｜苫米地英人

・㈹財団 湖聖会
理事長｜湖山泰成

・小林弘侑

・佐川印刷㈱
代表取締役会長｜木下寧久

・佐藤弘康

・サフラン電機㈱
代表取締役｜藤崎貴之

・㈱サンセイ
代表取締役｜冨田佳佑

・サントリーホールディングス㈱
代表取締役社長｜鳥井信宏

・㈱ジェイ・ウィル・コーポレーション
代表取締役社長｜佐藤雅典

・JCOM㈱
代表取締役社長｜岩木陽一

・㈱シグマクシス・ホールディングス
代表取締役社長｜太田 寛

・㈱ジャパン・アーツ
代表取締役社長｜二瓶純一

・㈱集英社
代表取締役社長｜林 秀明

・㈱小学館
代表取締役社長｜相賀信宏

・㈱商工組合中央金庫
代表取締役社長｜関根正裕

・庄司勇次朗・惠子

・㈱ショットビジョン
代表取締役｜森 昇平

・ジョンソン・エンド・ジョンソン㈱

・㈱白川プロ
代表取締役｜白川亜弥

・㈲新赤坂健康管理協会
代表取締役社長｜小池 学

・信越化学工業㈱
代表取締役社長｜斉藤恭彦

・新角卓也

・新菱冷熱工業㈱
代表取締役社長｜加賀美 猛

・スカパーJSAT㈱
代表取締役 執行役員社長｜米倉英一

・㈱菅原
代表取締役会長｜古江訓雄

・㈱スターフィー
代表取締役｜加藤智也

・住友商事㈱
代表取締役 社長執行役員 CEO
上野真吾

・住友電気工業㈱
社長｜井上 治

・セイコーグループ㈱
代表取締役会長兼グループCEO
兼グループCCO｜服部真二

・聖徳大学
理事長・学長｜川並弘純

・西武鉄道㈱
代表取締役社長｜小川周一郎

・清和綜合建物㈱
代表取締役社長｜大串桂一郎

・関彰商事㈱
代表取締役会長｜関 正夫

・㈱セノン
代表取締役社長｜澤本 泉

・㈱ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長グループCEO｜岩上敦宏

・損害保険ジャパン㈱
取締役社長｜石川耕治

・第一三共㈱
代表取締役会長｜眞鍋 淳

・第一生命保険㈱
代表取締役社長｜隅野俊亮

・大成建設㈱
代表取締役社長｜相川善郎

・大日コーポレーション㈱
代表取締役社長兼グループCEO
鈴木忠明

・高砂熱学工業㈱
代表取締役社長｜小島和人

・㈱ダク
代表取締役｜福田浩二

・武石洋明

・㈱竹中工務店
取締役執行役員社長｜丁野成人

・㈱竹中土木
取締役社長｜竹中祥悟

・㈱田園興産
代表取締役｜田園直樹

・田中貴金属工業㈱
代表取締役社長執行役員
田中浩一朗

・田原 昇

・㈱ダブルスタンダード
代表取締役｜福永康寛

・チャンネル銀河㈱
代表取締役社長｜前田鎮男

・中央日本土地建物グループ㈱
代表取締役社長｜三宅 潔

・中外製薬㈱
代表取締役社長｜奥田 修

・㈱電通
代表取締役 社長執行役員｜松本千里

・㈱テンポプリモ
代表取締役｜中村聡武

・東海東京フィナンシャル・ホールディングス㈱
代表取締役会長｜石田建昭

・東海旅客鉄道㈱
代表取締役社長｜丹羽俊介

・東急㈱
取締役社長 社長執行役員｜堀江正博

・㈱東急コミュニティー
代表取締役社長｜速川智行

・東急プロパティマネジメント㈱
取締役社長｜平本和弘

・㈱東急文化村
代表取締役｜嶋田 創

・東信地所㈱
代表取締役｜堀川利通

・東武鉄道㈱
取締役社長｜都筑 豊

・桐朋学園大学
学長｜辰巳明子

・東北電力㈱
代表取締役社長｜石山一弘

・㈲外川ビル
代表取締役｜外川信晃

・鳥取末広座㈱
代表取締役｜西川八重子

・㈠財TOPPAN三幸会
代表理事｜金子眞吾

・トヨタ自動車㈱
代表取締役社長｜近 健太

・内外施設工業グループホールディングス㈱
代表取締役社長｜林 克昌

・中銀グループ
代表｜渡辺歳人

・中山武之

・日鉄興和不動産㈱
代表取締役社長｜三輪正浩

・日東紡績㈱
取締役会長｜辻 裕一

・㈱日放ツーリスト
代表取締役社長｜佐々木裕二

・㈱日本アーティスト
代表取締役｜幡野菜穂子

・㈱日本ヴァイオリン
代表取締役｜中澤創太

・㈱日本カストディ銀行
代表取締役社長｜土屋正裕

・㈱日本国際放送
代表取締役社長｜前田浩志

・㈱日本政策投資銀行
代表取締役会長｜太田 充

・日本たばこ産業㈱
代表取締役社長｜筒井岳彦

・日本通運㈱
代表取締役社長｜竹添進二郎

・日本通信㈱
代表取締役社長兼CEO
福田尚久

・日本電気㈱
取締役 代表執行役社長兼CEO
森田隆之

・日本BCP㈱
代表取締役社長｜角谷育則

・㈠財日本放送協会共済会
理事長｜黒崎めぐみ

・日本みらいホールディングス㈱
代表取締役社長｜安嶋 明

・日本郵政㈱
取締役兼代表執行役社長｜根岸一行

・㈱ニトリホールディングス
代表取締役会長兼CEO｜似鳥昭雄

・㈱ニフコ
代表取締役社長｜柴尾雅春

・野村ホールディングス㈱
代表執行役社長｜奥田健太郎

・パナソニック ホールディングス㈱
代表取締役 社長執行役員 グループCEO
楠見雄規

・原田清朗

・㈱原田武夫国際戦略情報研究所
代表取締役｜原田武夫

・㈲パルフェ
代表取締役｜伊藤良彦

・ぴあ㈱
代表取締役社長｜矢内 廣

・㈱フォトロン
代表取締役｜瀧水 隆

・福島小松フォークリフト㈱
代表取締役｜四家英彦

・福田三千男

・富士通㈱
代表取締役社長｜時田隆仁

・㈱船井本社
代表取締役｜舩井勝仁

・古川宣一

・㈱朋栄ホールディングス
代表取締役｜清原克明

・㈱放送衛星システム
代表取締役社長｜寺田健二

・㈶放送文化基金
理事長｜濱田純一

・ホクト㈱
代表取締役｜水野雅義

・ポラリス・キャピタル・グループ㈱
代表取締役社長｜木村雄治

・前田工繊㈱
代表取締役社長｜前田尚宏

・牧 寛之

・町田優子

・松本満里子

・丸紅㈱
取締役 代表執行役社長｜大本晶之

・溝江建設㈱
代表取締役｜溝江 弘

・三井住友海上火災保険㈱
代表取締役｜海山 裕

・㈱三井住友銀行
頭取｜福留朗裕

・三井住友信託銀行㈱
取締役社長｜米山学朋

・三井住友トラストクラブ㈱
代表取締役社長｜山口信明

・密山根成

・三橋産業㈱
代表取締役会長｜三橋洋之

・三橋洋之

・三原穂積

・㈱ミロク情報サービス
代表取締役社長｜是枝周樹

・㈻武蔵野音楽学園 武蔵野音楽大学
理事長｜福井直昭

・明治ホールディングス㈱
代表取締役社長CEO｜松田克也

・㈱明電舎
代表取締役 執行役員社長｜井上晃夫

・メットライフ生命保険㈱
代表執行役 会長 社長 最高経営責任者
ディルク・オステイン

・㈱目の眼
社主｜櫻井 恵

・森ビル㈱
代表取締役社長｜向後康弘

・森平舞台機構㈱
代表取締役｜森 健輔

・山田産業㈱
代表取締役｜山田裕幸

・㈱ヤマハミュージックジャパン
代表取締役社長｜松岡祐治

・ユニオンツール㈱
代表取締役会長｜片山貴雄

・米澤文彦

・㈱読売旅行
代表取締役社長｜岩上秀憲

・リコージャパン㈱
代表取締役 社長執行役員CEO｜笠井 徹

・料亭 三長
代表｜髙橋千善

・㈱リンレイ
代表取締役社長｜鈴木信也

・㈲ルナ・エンタープライズ
代表取締役｜白鳥正美

・ローム㈱
代表取締役社長 社長執行役員｜東 克己

・㈱ワールド航空サービス
代表取締役社長｜菊間陽介

・YKアクロス㈱
代表取締役社長｜堀内博人

（五十音順、敬称略）

NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいただいており、当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

1. **会費**：一口50万円（年間）
2. **期間**：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. **入会の特典**：『フィルハーモニー』、「年間パンフレット」、「『第9』演奏会プログラム」等にご芳名を記載させていただきます。
   N響主催公演のご鑑賞や会場リハーサル見学の機会を設けます。

遺贈のご案内

資産の遺贈（遺言による寄付）を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介しております（三井住友信託銀行と提携）。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。
当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

お問い合わせ	公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」	TEL：03-5793-8120

100th
NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

「N響100年」特別賛助会員

株式会社アイシン
株式会社あ佳音
朝日信用金庫
イーソリューションズ株式会社
岩谷産業株式会社
内 聖美
株式会社NHKテクノロジーズ
NGK株式会社
NTT東日本株式会社
カルチュア・エンタテインメント グループ株式会社
医療法人社団 恒仁会
小林 弘侑
佐藤 弘康
株式会社ジェイ・ウィル・コーポレーション
JCOM株式会社
信越化学工業株式会社
新菱冷熱工業株式会社
株式会社菅原
セイコーグループ株式会社
株式会社セノン
全日本空輸株式会社
東信地所株式会社
桐朋学園大学
一般財団法人TOPPAN三幸会
日東紡績株式会社
日本通信株式会社
日本みらいホールディングス株式会社
東日本旅客鉄道株式会社
古川 宣一
株式会社朋栄ホールディングス
ホクト株式会社
株式会社みずほ銀行
三菱地所株式会社
三橋産業株式会社
三橋 洋之
株式会社目の眼
米澤 文彦
株式会社読売旅行
料亭 三長
株式会社リンレイ
有限会社ルナ・エンタープライズ
YCC株式会社

（五十音順、敬称略）

100th
NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

「N響100年」個人サポーター

青木 恒雄
東 則仁
阿部 直子
阿部 直子
飯田 陽介
井口 一世
池田 太朗
石井 育子
石崎 隆
磯上 樹
板倉 由美子
市橋 敏行
出石 直
稲吉 務
今泉 美輪
歌川 博之
内山 その
内山 貴史
榎本 悠介
大川 啓太
大木 千秋
大谷 淳
大谷 明
大矢 菜穂子
岡井 良祐
岡本 誠
小川 芳幸
尾澤 勉
尾島 大樹

影井 良貴
加藤 充子
門脇 昌子
鎌谷 朝之
神谷 久覚
唐木田 信也
刈谷 敦子
川北 晃彦
川崎 昭久
川名 庸一
川鍋 義章
川原 真理子
川村 哲也
簡 妙芬
冠 和宏
岸 道郎
北見 欣一
亀徳 忠正
貴布根 弘篤
木村 達央
木村 素子
清谷 直樹
蔵並 慧
黒木 憲太郎
黒田 真二
河野 太
古賀 信行
湖口 和幸
小島 美智恵

児矢野 昌敬
小山 豊
今野 惠一郎
坂井 康柄
阪本 信次
櫻澤 仁
佐宗 孝樹
佐藤 圭子
佐藤 治彦
三戸 淳一
柴田 理佳子
白取 洋
新保 和浩
鈴木 忠明
鈴木 宏治
曽我 健
大門 匡
髙木 功介
高田 康裕
高橋 正好
高原 俊二
田島 大輔
立石 知宏
田中 治郎
田中 伸幸
田中 正彦
張 嘉淵
津久井 秀郎
津々木 孝

恒川 雄三
時岡 明弘
轟 晴美
富永 純子
冨永 龍太郎
長尾 公彦
中川 幸子
中村 秀哉
中村 幸雄
根本 昌代
根本 佳則
野島 浩司
野田 広
野武 一郎
野中 明人
配島 一善
林 尚美
原田 清朗
疋田 和代
檜山 隆
福井 真哉
福本 出
藤沼 竜也
藤森 博昭
舩井 勝仁
古川 澄兄
真木 太郎
牧 廣美
町田 優子

松澤 和男
松信 正志
三井田 健
水上 慶太
三橋 祐太
三村 啓
宮崎 宏史
村井 暁子
村井 正浩
村上 純子
本 敬之
森山 雅一郎
柳原 隆司
藪下 真平
山口 剛史
山崎 雅彦
山下 史雄
山本 英一
横尾 順
四元 俊英
渡邉 貴子
渡邊 健
渡辺 徹郎

（五十音順、敬称略）

曲目解説執筆者

千葉 潤（ちば じゅん）

札幌大谷大学学長。専門はロシア音楽。著書に『ショスタコーヴィチ』『アリフレド・シュニトケの交響的創作――間テクスト分析の試み』、共編著書に『ロシア音楽事典』、共訳書にE. ウィルソン著『ショスタコーヴィチ――回想される生涯』、おもな論文に「エディソン・デニーソフ《死は永き眠り》における変奏技法の諸特徴」など。

西田紘子（にしだ ひろこ）

九州大学大学院教授。専門は欧米の音楽理論や音楽美学。著書に『ハインリヒ・シェンカーの音楽思想――楽曲分析を超えて』、共編著書に『近代日本と西洋音楽理論――グローバルな理論史に向けて』『音楽と心の科学史――音楽学と心理学が交差するとき』、共訳書に『絶対音楽――その理念史』など。

増田良介（ますだ りょうすけ）

専門はショスタコーヴィチをはじめとするロシア・ソ連音楽とマーラーなどの後期ロマン派音楽。音楽専門誌や演奏会プログラム、各社ライナーノートなどへの寄稿のほか、著書に『究極のオーケストラ超名曲徹底解剖66』など。

（五十音順、敬称略）

N響の出演番組

定期公演や特別公演の模様が放送されるほか、
大河ドラマのテーマ音楽や「名曲アルバム」の演奏なども行っています。
NHKの番組を通じてN響の演奏をお楽しみください。

クラシック音楽館（N響定期公演ほか）
Eテレ 日曜9:00～11:00pm

N響演奏会
FM 土曜4:00～5:50pm（不定期）

ベストオブクラシック
FM 7:35～9:15pm

クラシックTV（クラシック全般の話題を取り上げます）
Eテレ 木曜9:00～9:30pm
月曜2:00～2:30pm（再放送）

これらのテレビ・ラジオ番組はすべて「NHK ONE」で同時配信しており、その後1週間何度でもご視聴いただけます。
出演番組について、詳しくはNHKやN響のホームページをご覧ください。

みなさまの声をお聞かせください！

インターネットアンケートにご協力ください

ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。
ご協力をお願いいたします。

アクセス方法

STEP
1



スマートフォンで右の
QRコードを読み取る。
またはURLを入力
https://www.nhkso.or.jp/
enquete.html

STEP
2



開いたリンク先からアンケートサイトに入る

STEP
3



アンケートに答えて（約5分）、
「送信」を押して完了！

ほかにもご意見・ご感想がありましたらお寄せください。
定期公演会場の主催者受付にお持ちいただくか、
〒108-0074東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 フィルハーモニー編集までお送りください。

ふりがな		年齢	歳
お名前		TEL	

個人情報の取り扱いについて　ご提供いただいた個人情報は、必要な場合、ご記入者様への連絡のみに使用し、他の目的に使用いたしません。

キリトリ

NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Fabio Luisi
Music Director Emeritus: Charles Dutoit
Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt
Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy
Honorary Conductor: Paavo Järvi
Permanent Conductors: Tadaaki Otaka, Tatsuya Shimono

First Concertmaster: Sunao Goko, Kota Nagahara
Guest Concertmaster: Yosuke Kawasaki

1st Violins

Shirabe Aoki
Ayumu Iizuka
○ Kyoko Une
Yuki Oshika
○ Ryota Kuratomi
Ko Goto
Tamaki Kobayashi
Toshihiro Takai
Taiga Tojo
Yuki Naoi
Yumiko Nakamura
Takao Furihata
Hiroyuki Matsuda
○ Haruhiko Mimata
Nana Miyagawa
○ Tsutomu Yamagishi
○ Koichi Yokomizo

2nd Violins

◎ Rintaro Omiya
◎ Masahiro Morita
Maiko Saito
○ Keiko Shimada
Reika Shimizu
○ Atsushi Shirai
○ Akiko Tanaka
Kirara Tsuboi
Yosuke Niwa
Kazuhiko Hirano
Yoko Funaki
Kenji Matano
Ryuto Murao
Masaya Yazu
Yoshikazu Yamada
○ Masamichi Yokoshima
Yuka Yoneda

∗ Yui Yuhara

Violas

◎ Ryo Sasaki
◎ Junichiro Murakami
☆ Shotaro Nakamura
Shigetaka Obata
Eri Kuribayashi
□ Gentaro Sakaguchi
Mayumi Taniguchi
Hiroto Tobisawa
○ Hironori Nakamura
Naoyuki Matsui
Rachel Yui Mikuni
♯ Yuya Minorikawa
○ Ryo Muramatsu
∗ Shiori Wada

Cellos

◎ Rei Tsujimoto
◎ Ryoichi Fujimori
Hiroya Ichi
Yukinori Kobatake
○ Miho Naka
○ Ken'ichi Nishiyama
Shunsuke Fujimura
Koichi Fujimori
Hiroshi Miyasaka
Yuki Murai
Yusuke Yabe
○ Shunsuke Yamanouchi
Masako Watanabe

Contrabasses

◎ Shu Yoshida
○ Masanori Ichikawa
Eiji Inagawa
○ Jun Okamoto
Takashi Konno
○ Shinji Nishiyama
Tatsuro Honma
Yoko Yanai

Flutes

◎ Masayuki Kai
◎ Hiroaki Kanda
Maho Kajikawa
♯ Junji Nakamura

Oboes

◎ Shuhei Nakamura
◎ Yumi Yoshimura
Shoko Ikeda
Izumi Tsuboike
Hitoshi Wakui

Clarinets

◎ Kei Ito
◎ Kenji Matsumoto
Hiroki Domen
Takashi Yamane

Bassoons

◎ Hironori Ugajin
◎ Kazusa Mizutani
Shusuke Ouchi
Yuki Sato
Itaru Morita

Horns

◎ Hitoshi Imai
Naoki Ishiyama
Yasushi Katsumata
Hiroshi Kigawa
Yudai Shoji
Kazuko Nomiyama

◇ Nobuaki Fukukawa

Trumpets

◎ Kazuaki Kikumoto
◎ Tomoyuki Hasegawa
Tomoki Ando
Kotaro Fujii
Eiji Yamamoto

Trombones

◎ Hikaru Koga
◎ Mikio Nitta
Ko Ikegami
Hiroyuki Kurogane
∗ Hayato Konno

Tuba

Yukihiro Ikeda

Timpani

◎ Shoichi Kubo
☆ Toru Uematsu

Percussion

Tatsuya Ishikawa
Hidemi Kuroda
Satoshi Takeshima

Harp

Risako Hayakawa

Stage Manager

Masaya Tokunaga

Librarians

Akane Oki
Hideyo Kimura

(◎ Principal, ◇ Guest Principal, ☆ Acting Principal, ○ Vice Principal, □ Acting Vice Principal, ♯ Inspector, ∗ Intern)

PROGRAM

A

Concert No. 2074

NHK Hall

November
7 (Sat) **6:00pm**
8 (Sun) **2:00pm**

conductor	Tugan Sokhiev
violin	Mayuko Kamio
concertmaster	Sunao Goko

Sergei Prokofiev
Violin Concerto No. 1 D Major
Op. 19 [23′]

I Andantino
II Scherzo: Vivacissimo
III Moderato

— **intermission** (20 minutes) —

Dmitry Shostakovich
Symphony No. 8 C Minor Op. 65
[60′]

I Adagio — Allegro non troppo — Adagio
II Allegretto
III Allegro non troppo
IV Largo
V Allegretto

- All performance durations are approximate.

Artist Profiles

Tugan Sokhiev, conductor



Internationally renowned conductor Tugan Sokhiev, one of the last students of legendary teacher Ilya Musin at the St. Petersburg Conservatory, divides his time between the symphonic and operatic repertoire. He was newly appointed Principal Conductor and Artistic Advisor of the Orchestre de la Suisse Romande beginning with this season.

A former Music Director of the Orchestre national du Capitole de Toulouse, he enjoys close and privileged relationships with orchestras such as the Wiener, Berliner and Münchner Philharmoniker orchestras, Symphonieorchester des Bayerischen Rundfunks and Gewandhausorchester Leipzig. Outside Europe, he is invited to conduct the finest U.S. orchestras including the Boston and Chicago Symphony Orchestras. Passionate about his work

with singers, he was Music Director and Chief Conductor of the Bolshoi Theatre in Moscow from 2014 to 2022. Recently, he conducted a new production of *Iolanta* at the Wiener Staatsoper and gave tours with the Wiener Philharmoniker (Asia), the Münchner Philharmoniker (Asia and Europe) and the Staatskapelle Dresden (Europe), conducting the Wiener Philharmoniker's celebrated Sommernachtskonzert in the Schönbrunn Palace.

Highlights of the last season include his collaborations with the Wiener Philharmoniker for their gala concert celebrating Johann Strauss II's 200th birthday, with the Berliner Philharmoniker at the Osterfestspiele Salzburg, his Cleveland Orchestra debut, and his conducting of a new production of *Tannhäuser* at the Opernhaus Zürich.

He made his NHK Symphony Orchestra debut in 2008 conducting Shostakovich's Symphony No. 5. Since his first appearance at their subscription concerts in 2013, he has spent several weeks almost every year with the orchestra. This time, he programed orchestral works by Beethoven and Russian composers, coupling them with Prokofiev's and Rachmaninov's concertos to collaborate with soloists Mayuko Kamio and Alexandre Kantorow, both the International Tchaikovsky Competition winners.

Mayuko Kamio, violin



Japanese violinist Mayuko Kamio, the gold medalist of the 2007 International Tchaikovsky Competition, is widely praised for her luxurious silken tone, long expressive phrasing and virtuoso techniques.

She made her concerto debut in Tokyo at age 10 under the baton of Charles Dutoit, in a concert broadcast on NHK television. She has since appeared with the world's eminent ensembles and musicians, including the Tonhalle-Orchester Zürich with Mstislav Rostropovich, Israel Philharmonic and Münchner Philharmoniker both under Zubin Mehta, and the Budapest Festival Orchestra under Iván Fischer.

She was trained by Dorothy DeLay and Masao Kawasaki at the Aspen Music Festival and in the pre-college division of The Juilliard School, before studying with Koichiro Harada at the Toho Gakuen School of Music. She then worked with Zakhar Bron at the Hochschule für Musik und Theater in Zurich.

She has collaborated with the NHK Symphony Orchestra regularly for many years. As for Prokofiev, she performed his Violin Concerto No. 2 with the orchestra under Tugan Sokhiev in 2008 and under Vladimir Ashkenazy in 2011. This time, she will play the composer's concerto No. 1 rejoining the orchestra led by Sokhiev.

She plays on the 1731 "Rubinoff" made by Antonio Stradivari, kindly offered by the Munetsugu Collection in Tokyo.

Sergei Prokofiev (1891–1953)

Violin Concerto No. 1 D Major Op. 19

Born in Sontsivka village (today in Ukraine) in Imperial Russia, Sergei Prokofiev was trained by Anatoly Lyadov (1855–1914) and Nikolai Rimsky-Korsakov (1844–1908) at the Saint Petersburg Conservatory. The young composer-pianist Prokofiev attracted the Russian music scene's attention as a daring "enfant terrible" with his earliest compositions marked by a fierce modernism as represented by the Piano Concerto No. 1 (1912).

Following the 1917 Bolshevik Revolution, Prokofiev left his home in May 1918 by permission of the Soviet authorities. For the next eighteen years, he traveled back and forth between America and Europe in pursuit of greater renown. His Violin Concerto No. 1, penned in 1916–1917, is one of his masterpieces born of his brilliant inspiration just before this emigration, alongside works including the opera *The Gambler* (1915–1917), Symphony No. 1 *Classical* (1916–1917), and *Visions fugitives* (1915–1917) for piano.

Prokofiev wrote the Violin Concerto No. 1 with the premiere in his mind by the Polish violinist Paul Kochanski, then based in Russia. However, this didn't happen due to the revolutionary turmoil. It finally received the world-premiere in 1923 in Paris under Serge Koussevitzky (who had just fled the USSR) conducting his own orchestra and its concert master Marcel Darrieux as soloist. To Parisian audiences seeking out the cutting edge, this concerto evidently sounded outdated and overly Romantic. The legendary violinist Joseph Szigeti was one of the first to make its true worth known to the world, delivering its brilliant rendition in Prague and Leningrad in 1924, before becoming the first in the world to record it in 1935.

This concerto takes an unusual tempo layout with three slow-fast-slow movements. The first movement, often likened to a daydream, has the violin solo introduce the drifting first theme marked "sognando (dreamily)" at the start, and the bouncy second theme played "narrante (like a story-telling)." In contrast, the middle scherzo movement offers a demoniac motoric burst of notes typical of Prokofiev. The finale takes us back into the lyrical world of daydreams, and concludes amidst an ethereal atmosphere recalling the end of the first movement.

Dmitry Shostakovich (1906–1975)

Symphony No. 8 C Minor Op. 65

Dmitri Shostakovich was born in Saint Petersburg a decade before the Russian Empire collapsed. The son of an amateur singer father (who was an engineer) and a pianist mother, he revealed his astonishing musical talent soon after he started to play piano and compose at an early age. During the turbulence following the 1917 Bolshevik Revolution, he studied composition with Maximilian Steinberg (Nikolai Rimsky-Korsakov's pupil and son-in-law) at the Petrograd (Saint Petersburg) Conservatory. Starting with the successful

1926 premiere of the Symphony No. 1, Shostakovich went on to establish himself as the most important symphonist to follow Gustav Mahler (1860–1911) and Jean Sibelius (1865–1957).

Having experienced the Revolution at age 11, Shostakovich remained behind the Iron Curtain, unlike Sergei Rakhmaninov (1873–1943) who exiled himself, Igor Stravinsky (1882–1971) who decided to stay in the West, nor above-mentioned Prokofiev who lived outside the USSR for almost two decades. On their native soil, especially during the era of Joseph Stalin from 1924 to 1953, the authorities utilized every art form as a vehicle for their propaganda. Many of artists who didn't meet the official Soviet style called "socialist realism" were destined for purge, labor camp, torture or execution.

As for Shostakovich, the regime condemned his opera in 1936 so he rehabilitated himself writing the "exemplary" Symphony No. 5 (1937). Four years later, his Symphony No. 7 *Leningrad*, penned in the midst of the Great Patriotic War (Eastern Front), received worldwide recognition as a masterpiece prefiguring the triumph against the Nazism. He then set to work on the Symphony No. 8 in the summer of 1943 immediately after the Red Army's victory at Stalingrad. However, contrary to the Party's expectation, it didn't turn out to be another patriotically exultant symphony with a triumphal finish. Enraged, the Party would later ban it from performance.

Like Ludwig van Beethoven's Fifth (*Destiny*), Shostakovich's Eighth begins in C minor and ends in C major, provided their conclusions are miles apart. The latter is cast unconventionally in five movements of which the last three are played without pause. Moreover, the anguished first movement in modified sonata form takes up approximately half of the whole symphony. At the beginning, low strings declare a dreadful three-note motif (C–B-flat–C) which would play, in slightly different shapes, important roles in all other movements. After the next sarcastic scherzo movement, the machinelike third movement is shackled by a remorseless ostinato (persistently repeated phrase). The slow fourth movement in G-sharp minor, a passacaglia (continuous variation on a bass theme), is also haunted by a relentless repeat: tam-tam (gong) leads to the forceful statement of the theme followed by its eleven variations. The work attains C major at the opening of the finale in rondo sonata form, where the inverted three-note motif (C–D–C) is the base of the idyllic main theme given by bassoon. The momentary optimism makes way for likely the most dispirited C-major close in symphonic history.

Kumiko Nishi

English-French-Japanese translator based in the USA. Holds a MA in musicology from the University of Lyon II, France and a BA from the Tokyo University of the Arts (Geidai).

PROGRAM

B

Concert No. 2076

Suntory Hall

November
19(Thu) **7:00pm**
20(Fri) **7:00pm**

conductor	Tugan Sokhiev for a profile of Tugan Sokhiev, see p. 55
piano	Alexandre Kantorow
concertmaster	Sunao Goko

Sergei Rakhmaninov
Piano Concerto No. 2 C Minor
Op. 18 [34′]

I Moderato
II Adagio sostenuto
III Allegro scherzando

— **intermission** (20 minutes) —

Peter Ilich Tchaikovsky
***The Nutcracker*, ballet Op. 71**
(**Selected by Tugan Sokhiev**) [38′]

Overture
[Act II]
No. 10 Scene (In the Magic Castle on the Sugar Mountain)
No. 11 Scene (Clara and the Prince)
No. 12 Divertissement
a. Chocolate (Spanish Dance)
b. Coffee (Arabian Dance)
c. Tea (Chinese Dance)
d. Trepak (Russian Dance)
e. Dance of the Reed-Pipes
f. Mother Gigogne and the Clowns
No. 13 Waltz of the Flowers
No. 14 Pas de deux
c. Variation 2 Dance of the Sugar Plum Fairy
a. Intrada

- All performance durations are approximate.

Artist Profile

Alexandre Kantorow, piano



In 2019, aged 22, Alexandre Kantorow became the first French pianist to win the Gold Medal at the International Tchaikovsky Competition, along with the rarely awarded Grand Prix, granted only three times in the competition's history. In 2024, he received the esteemed Gilmore Artist Award, solidifying his place as one of the world's leading pianists. A former student of Pierre-Alain Volondat, Igor Lazko, Frank Braley, and Rena Shereshevskaya, he is in demand today at the highest level across the globe, performing in the world's finest halls both in recital and with the most renowned orchestras and conductors.

Highlights of the last season include a tour of Japan with the Royal Concertgebouw Orchestra under Klaus Mäkelä, European tours with the Filarmonica della Scala under Riccardo Chailly and the London Philharmonic Orchestra under Paavo Järvi, and a tour to the U.S. with the Philharmonia and Marin Alsop including a performance at Carnegie Hall. In July 2024, he performed Ravel's *Jeux d'eau* at the opening ceremony of the Paris Olympic Games.

This is his first collaboration with the NHK Symphony Orchestra. Conductor Tugan Sokhiev, whom he has frequently co-starred with, was on the podium when the pianist made his sensational Berliner Philharmoniker debut in 2023.

B

19 & 20. NOV. 2026

Program Notes

Sergei Rakhmaninov (1873–1943)

Piano Concerto No. 2 C Minor Op. 18

Born into a Russian noble family, Sergei Rakhmaninov received training as a piano prodigy in Saint Petersburg, before studying piano and composition in Moscow. After leaving his beloved native land ruled by the Soviets following the 1917 Russian Revolution, he spent the rest of his days in exile and passed away in the USA.

A key work of his pre-exile period, Piano Concerto No. 2 was composed in 1900–1901. Its successful first performance was for him the exit of a long tunnel, for he had suffered from a loss of self-confidence and writer's block since the fiasco of the 1897 premiere of his Symphony No. 1. He dedicated the Concerto to the physician and hypnotist Nikolai Dahl who treated him to restore his confidence.

The Concerto is an eloquent witness of Rakhmaninov's reliance on the Western 19th-century Romantic idioms. This was unswerving during his long life treading in the footsteps of his idol Peter Ilich Tchaikovsky (discussed below) who trained Anton Arensky (1861–1906), Rakhmaninov's harmony teacher. The Concerto is known as a tremendously difficult piece for pianists, as Rakhmaninov wrote it for himself who was a top piano virtuoso with phenomenally large hands.

The opening movement is in sonata form. Piano solo prefaces it with a solemn eight

bars showing how deeply Russian church bells were engraved in Rakhmaninov's mind. Then strings state the first weighty, wavy theme in the home key. The E-flat-major second theme introduced by piano is a tenderer and more lyrical nature. The middle movement has also a brief preamble followed by A–B–A form. Flute and then clarinet give the mellifluous main tune for the A section. As if breaking a stillness, the next movement begins with a march-like brilliant introduction. In this finale, two opposed moods alternate due to two main elements recurring: the effervescent first theme with staccato is launched immediately by piano, and later the placid second theme appears on oboe and violas before being sung by piano with a resounding voice. The concerto heads toward an exultant C-major conclusion.

Peter Ilich Tchaikovsky (1840–1893)

The Nutcracker, ballet Op. 71 (Selected by Tugan Sokhiev)

At the forefront of Russian Romanticism, Peter Ilich Tchaikovsky is well-known for his innate good sense of melody writing and his style deeply rooted in the Western, European tradition. He achieved lasting fame particularly with his three ballet scores, *Swan Lake*, *The Sleeping Beauty* and *The Nutcracker*.

The year 1886 was definitely a crucial one for Tchaikovsky and Russian ballet history, as Ivan Vsevolozhsky, then the director of the Imperial Theatres in Saint Petersburg, took two drastic measures. One was relocating the Imperial Ballet from the aging Bolshoi Kamenny Theatre to the newer Mariinsky Theatre. The other, was putting an end to the post of principal composer at the Imperial Ballet aiming at diversifying ballet music. This would give birth to *The Sleeping Beauty* and *The Nutcracker* (premiered respectively in 1890 and 1892 at the Mariinsky Theatre) of which Vsevolozhsky commissioned Tchaikovsky to compose the scores. More than a decade had passed then, since the composer suffered a bitter experience at the 1877 premiere of *Swan Lake* in Moscow with his music being treated disrespectfully.

The first half (Act 1) of the fairy-ballet *The Nutcracker* is set in a house where the family of young Clara hosts a gathering around a beautiful Christmas tree. Clara's godfather gives her a nutcracker doll as a present. In the middle of the night, after the guests have left and everyone but Clara has fallen asleep, the Nutcracker, now life size and joined by gingerbread soldiers, begins the battle against the mice led by their King. Clara rescues the Nutcracker from a life-threatening situation, so he defeats the Mouse King. The Nutcracker transforms into a human prince and, in gratitude, invites Clara to the Land of Sweets ruled by the Sugar Plum Fairy.

For today's concert, our conductor Tugan Sokhiev selected some numbers from the second half (Act 2) of the ballet. They will be preceded by the ballet's famous, fairytale-like **Overture** calling for only high-pitched instruments. Sokhiev's idea is to immediately invite his audience to a party to welcome Clara in the Land of Sweets where a succession of musically inventive, captivating, and at times exotic dances unfolds. Following the Overture, the entrance of Clara and the Nutcracker Prince into the Land of Sweets is informed with sparkling ***In the Magic Castle on the Sugar Mountain*** (No. 10 Scene)

where a celesta (bell-piano) representing the Sugar Plum Fairy and harps play prominent roles. The highlights of this Sokhiev Selections are two pieces performed towards the end: ***Waltz of the Flowers*** (No. 13), opened with an enchanting tonal cascade on a harp, has tuneful string melodies, while **Variation II:** ***Dance of the Sugar Plum Fairy*** (No. 14 Pas de deux) showcasing the dreamlike, metallic timbre of a celesta is a fine example of Tchaikovsky's boundless musical imagination.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 58

PROGRAM

C

Concert No. 2075
NHK Hall
November
13(Fri) 7:00pm
14(Sat) 2:00pm

conductor Tugan Sokhiev | for a profile of Tugan Sokhiev, see p. 55

concertmaster Kota Nagahara

NHKSO 100th Anniversary:
Beethoven Symphony Cycle 3

Ludwig van Beethoven
***Coriolan*, overture Op. 62** [8′]

Ludwig van Beethoven
Symphony No. 2 D Major Op. 36
[37′]

I Adagio molto — Allegro con brio
II Larghetto
III Scherzo: Allegro
IV Allegro molto

— intermission (20 minutes) —

Ludwig van Beethoven
Symphony No. 6 F Major Op. 68,
Pastoral [40′]

I Angenehme, heitere Empfindungen, welche bei der Ankunft auf dem Lande im Menschen erwachen: Allegro ma non troppo
II Szene am Bach: Andante molto moto
III Lustiges Zusammensein der Landleute: Allegro
IV Donner, Sturm: Allegro
V Hirtengesang, Wohltätige, mit Dank an die Gottheit verbundene Gefühle nach dem Sturm: Allegretto

- All performance durations are approximate.

C

13 & 14. NOV. 2026

Program Notes

Ludwig van Beethoven (1770–1827)

Coriolan, overture Op. 62

One of the figures who made the most significant contribution to classical music history, German composer Ludwig van Beethoven established his career in Vienna, Austria. He arrived in the Capital of Classical Music in 1792 as a virtuoso pianist-composer and keyboard-improviser. After studying composition under Joseph Haydn (1732–1809) and others there, he premiered his Symphony No. 1 in 1800 to mark a crucial step forward as a symphonist.

The dramatic overture *Coriolan* in C minor, written in early 1807, dates from the same period as the Symphony No. 4. The first performances of the two works were allegedly the highlights of the private concerts held in March 1807 at the palace of the composer's patron Prince Lobkowitz in Vienna.

Beethoven wrote the overture for the play of the same name by his close friend Heinrich Joseph von Collin, while it is unclear whether the composition was spontaneous or requested. This five-act tragedy concluding with the noble death of Roman general Coriolanus, had enjoyed popularity and frequent revivals since its 1802 premiere.

The overture conveys the characters' personalities and the atmospheres of the drama's crucial moments through music, rather than faithfully tracing the plot. Opened by a few tense chords, the overture in sonata form has the fervently combative first theme evoking the war-hero protagonist, and the affectionate second theme likely portraying his family who dissuade him from attacking his home city of Rome.

Ludwig van Beethoven

Symphony No. 2 D Major Op. 36

The current season of the NHK Symphony Orchestra, Tokyo (hereafter NHKSO) has invited us on a journey through all of Beethoven's nine symphonies. This is to mark the 200th anniversary of his death and the 100-year milestone of the NHKSO since its 1926 foundation. In 1927, the newborn orchestra commemorated the 100th anniversary of the composer's death performing seven of his symphonies and three of his piano concertos. The NHKSO has since deepened its relationship with his great musical legacy.

Compared to his teacher Haydn who left us a significant number of symphonies, Beethoven composed only a handful. Each of his nine symphonies are nevertheless monumental in their own way and represent watershed moments, not only in his career but also in music history. For many composers after Beethoven, writing the "first" symphony was a synonym with confronting a nemesis, not to mention Johannes Brahms (1833–1897) who spent over twenty years to complete his No. 1.

As an opposite case of Gustav Mahler (1860–1911) who wrote the dark Symphony No. 6 *Tragische* (*Tragic*) at the peak of his happiness, Beethoven composed the cheerful Symphony No. 2 in D major facing his deteriorating hearing in despair. He started work on it in earnest in the autumn of 1801—after he had completed works including the Piano Sonata No. 14 *Moonlight*—and perfected the symphony in 1802 presumably while resting in the village of Heiligenstadt following his doctor's advice. During this stay, Beethoven penned the famous Heiligenstadt Testament. In this letter addressed to his brothers, he writes his suffering of hearing difficulty, feelings of loneliness and isolation, suicidal urges that tormented him, yet his steadfast determination to fulfill his mission as an artist.

The Symphony No. 2 was premiered in April 1803 at the Theater an der Wien, where Beethoven served as the resident composer. It adopts, overall, a conventional structure following Haydn, while one catches glimpses throughout of Beethoven's eagerness to breathe new life into this genre even more than in his No. 1 (1799).

During the extended introduction of the opening movement, Beethoven surprises

us with his astonishingly bold key changes. The subsequent main sonata section, marked Allegro con brio (fast and with vigor), has low strings introduce the elating first theme in D major, before the winds present the bucolic second theme in A major. The second movement in A major, performed without trumpets and timpani, is well-known for its melodious beauty. The third movement in D major is historically significant, as Beethoven replaces the traditional courtly minuet movement with an energetic and lively scherzo for the first time in his symphonies. The finale, again in D major, is a rondo-sonata. The principal (rondo) theme, given at the start, is of comical nature, and the large coda in high spirits is packed with various unexpected twists.

Ludwig van Beethoven

Symphony No. 6 F Major Op. 68, *Pastoral*

Beethoven penned his Symphony No. 6 from 1807 to 1808. It was premiered in December 1808 in Vienna together with its exceedingly famous symphonic sibling No. 5 (*Destiny*). The two works are generally regarded as worlds apart, No. 6 being considered much more moderate in respect of style and character like his other even-numbered symphonies. However, it is in reality as epochal as No. 5 in another way, as it blazed a trail for future programmatic symphonies with the genuine Romantic spirit such as *Symphonie fantastique* (1830) by Berlioz and acres of symphonic (tone) poems.

Worthy of mention is that No. 6 is Beethoven's only symphony having five movements (moreover, the last three ones are performed continuously) and official programmatic contents: he called the work "*Pastoral Symphony*, or Recollections of Country Life" and imparted each movement a detailed, descriptive subtitle. Nevertheless, he reminded us about his ultimate objective, emphasizing that the work is "more an expression of feeling than tone-painting."

This novel stance is explicitly found in the subtitle of the literally-pastoral first movement "Awakening of cheerful feelings on arrival in the countryside." The listeners may well project this protagonist with "feelings" on Beethoven himself who loved spending time in nature. He ingeniously built this entire sonata movement with the opening melodic/rhythmic motifs heard on the first violins (A–B-flat–D–C / C–B-flat–A–G–C). The most realistic and picturesque is the second movement "Scene by the brook." Here, the composer even specifies which birds solo wind instruments embody during the cadenza-like moment towards the end: nightingale (flute), quail (oboe) and cuckoo (clarinets). The next merry scherzo is said to parody a-slightly-lazy rural bandsmen at moments. The fourth movement is scored for the largest orchestra of the whole symphony including timpani and piccolo which portray thunder and lightning respectively. The finale, or "Shepherd's song. Cheerful and grateful feelings after the storm," closes the symphony in peace giving thanks to the Creator.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 58

The Subscription Concerts Program 2026–27

2026 12

A

Concert No. **2077**

November
28 (Sat) 6:00pm
29 (Sun) 2:00pm
Program A of the December subscription concerts will be held in November.
NHK Hall

NHKSO 100th Anniversary

Falla *El sombrero de tres picos*, ballet suite No. 2 (*The Three-Cornered Hat*)
Ravel Piano Concerto G Major
Berlioz *Symphonie fantastique*, Op. 14 (*Fantastic Symphony*)

Charles Dutoit, conductor
Martha Argerich, piano

	Ordinary	Youth
S	17,000	8,500
A	14,500	7,000
B	11,500	5,500
C	9,500	4,500
D	7,500	3,500
E	5,500	2,500

B

Concert No. **2079**

December
10 (Thu) 7:00pm
11 (Fri) 7:00pm
Suntory Hall

Mozart *Die Zauberflöte*, opera K. 620 – Overture (*The Magic Flute*)
Srnka *Smoke* for Cello and Orchestra [NHKSO 100th Anniversary Commissioned Work / Co-commission with the Czech Philharmonic / World Premiere]
Mendelssohn Symphony No. 3 A Minor Op. 56, *Scottish*

Maxim Emelyanychev, conductor
Nicolas Altstaedt, cello

	Ordinary	Youth
S	12,000	6,000
A	10,000	5,000
B	8,000	4,000
C	6,500	3,250
D	5,500	2,750

C

Concert No. **2078**

December
4 (Fri) 7:00pm
5 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

NHKSO 100th Anniversary: Beethoven Symphony Cycle 4

Beethoven Symphony No. 4 B-flat Major Op. 60
Beethoven Symphony No. 7 A Major Op. 92

Charles Dutoit, conductor
- Beethoven's Symphony No. 9 *Choral* is scheduled to be performed at the "Beethoven '9th' Symphony Concert" at the end of 2026 (conductor: Marek Janowski).

	Ordinary	Youth
S	12,000	6,000
A	10,000	5,000
B	8,000	3,600
C	6,500	3,250
D	5,500	1,900
E	3,300	1,600

2027 01

A

Concert No. **2080**

January
16 (Sat) 6:00pm
17 (Sun) 2:00pm
NHK Hall

Mahler Symphony No. 9 D Major

Fabio Luisi, conductor

	Ordinary	Youth
S	13,000	6,500
A	11,000	5,200
B	8,500	4,000
C	7,000	3,500
D	5,600	2,000
E	3,500	1,700

B

There will be no subscription concerts of Program B in January, February, April, May, and June due to renovation of Suntory Hall.

C

Concert No. **2081**

January
22 (Fri) 7:00pm
23 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

The 200th Anniversary of Beethoven's Death: Piano Concerto Cycle 1

Sørensen *Evening Land* (2017)
Beethoven Piano Concerto No. 1 C Major Op. 15
Nielsen Symphony No. 6, *Sinfonia semplice*

Fabio Luisi, conductor
Alessandro Taverna, piano

	Ordinary	Youth
S	12,000	6,000
A	10,000	5,000
B	8,000	3,600
C	6,500	3,250
D	5,500	1,900
E	3,300	1,600

2027 02

A

Concert No. **2082**

February
6 (Sat) 6:00pm
7 (Sun) 2:00pm
NHK Hall

Bach / Webern *Musikalisches Opfer*, BWV 1079 – *Ricercar à 6 voci* (*The Musical Offering – 6 Voice Fugue*)
Mahler *5 Lieder nach Texten von Friedrich Rückert* (*5 Songs after Friedrich Rückert*)
Schönberg Chamber Symphony No. 2 Op. 38
Schubert Symphony No. 7 B Minor D. 759, *Unvollendete* (*Unfinished Symphony*)

Antonello Manacorda, conductor **Andrè Schuen**, baritone

	Ordinary	Youth
S	10,000	5,000
A	8,500	4,000
B	6,500	3,100
C	5,400	2,550
D	4,300	1,500
E	2,200	1,000

B

There will be no subscription concerts of Program B in January, February, April, May, and June due to renovation of Suntory Hall.

C

Concert No. **2083**

February
12 (Fri) 7:00pm
13 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

The 200th Anniversary of Beethoven's Death: Piano Concerto Cycle 2

Schumann *Genoveva*, opera Op. 81 – Overture
Beethoven Piano Concerto No. 2 B-flat Major Op. 19
Hisatada Otaka *Ashiya Otome*, symphonic poem Op. 9
Panufnik Symphony No. 2, *Sinfonia Elegiaca*

Tadaaki Otaka, conductor
Yunchan Lim, piano

	Ordinary	Youth
S	10,000	5,000
A	8,500	4,000
B	6,500	3,100
C	5,400	2,550
D	4,300	1,500
E	2,200	1,000

A **NHK Hall**
Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm)
Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

B **Suntory Hall**
Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm)
Fri. 7:00pm (doors open at 6:20pm)

C **NHK Hall**
Fri. 7:00pm (doors open at 6:00pm)
Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

2027 04

A

Concert No. **2084**

April
10 (Sat) 6:00pm
11 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Mendelssohn Violin Concerto E Minor Op. 64
R. Strauss *Eine Alpensinfonie* Op. 64 (*An Alpine Symphony*)

Fabio Luisi, conductor
James Ehnes, violin

	Ordinary	Youth
S	13,000	6,500
A	11,000	5,200
B	8,500	4,000
C	7,000	3,500
D	5,600	2,000
E	3,500	1,700

B

There will be no subscription concerts of Program B in January, February, April, May, and June due to renovation of Suntory Hall.

C

Concert No. **2085**

April
23 (Fri) 7:00pm
24 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

The 200th Anniversary of Beethoven's Death: Piano Concerto Cycle 3

Dvořák *The Noon Witch*, symphonic poem Op. 108
Beethoven Piano Concerto No. 3 C Minor Op. 37
Unsuk Chin *Subito con forza*
Shostakovich Symphony No. 9 E-flat Major Op. 70

Elim Chan, conductor
Alice Sara Ott, piano

	Ordinary	Youth
S	10,000	5,000
A	8,500	4,000
B	6,500	3,100
C	5,400	2,550
D	4,300	1,500
E	2,200	1,000

2027 05

A

Concert No. **2086**

May
8 (Sat) 6:00pm
9 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Grieg Piano Concerto A Minor Op. 16
Stenhammar Symphony No. 2 G Minor Op. 34

Paavo Järvi, conductor
Denis Kozhukhin, piano

	Ordinary	Youth
S	12,000	6,000
A	10,000	5,000
B	8,000	3,600
C	6,500	3,250
D	5,500	1,900
E	3,300	1,600

B

There will be no subscription concerts of Program B in January, February, April, May, and June due to renovation of Suntory Hall.

C

Concert No. **2087**

May
21 (Fri) 7:00pm
22 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

The 200th Anniversary of Beethoven's Death: Piano Concerto Cycle 4

Lully *Le bourgeois gentilhomme*, ballet
(*The Bourgeois Gentleman* / Excerpts)
Beethoven Piano Concerto No. 4 G Major Op. 58
R. Strauss *Der Bürger als Edelmann*, suite Op. 60
(*The Bourgeois Gentleman*)

Kent Nagano, conductor
Till Fellner, piano

	Ordinary	Youth
S	11,000	5,500
A	9,500	4,500
B	7,600	3,500
C	6,000	2,800
D	5,000	1,800
E	3,000	1,400

2027 06

A

Concert No. **2088**

June
5 (Sat) 6:00pm
6 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Mozart Symphony No. 35 D Major K. 385, *Haffner*
Bruckner Symphony No. 3 D Minor, *Wagner-Symphonie*
(Third Version / 1889)

Tugan Sokhiev, conductor

	Ordinary	Youth
S	12,000	6,000
A	10,000	5,000
B	8,000	3,600
C	6,500	3,250
D	5,500	1,900
E	3,300	1,600

B

There will be no subscription concerts of Program B in January, February, April, May, and June due to renovation of Suntory Hall.

C

Concert No. **2089**

June
18 (Fri) 7:00pm
19 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

The 200th Anniversary of Beethoven's Death: Piano Concerto Cycle 5

Beethoven Piano Concerto No. 5 E-flat Major Op. 73, *Emperor*
R. Strauss *Ein Heldenleben*, symphonic poem Op. 40 (*A Hero's Life*)

Thomas Guggeis, conductor
Kirill Gerstein, piano

	Ordinary	Youth
S	11,000	5,500
A	9,500	4,500
B	7,600	3,500
C	6,000	2,800
D	5,000	1,800
E	3,000	1,400

(tax included)

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

N響関連のお知らせ

100th NHKSO NHK SYMPHONY ORCHESTRA TOKYO

「N響100年」記念ページはこちらから

N響ホームページ

「N響100年」記念ページ

https://www.nhkso.or.jp/100th/

N響100年を記念するおもな公演・事業や首席指揮者ファビオ・ルイージのメッセージが紹介されているほか、N響のこれまでの歩みをまとめた年表や読み物をご覧いただけます。また「演奏記録アーカイブ／資料アーカイブ」では、N響100年の全演奏会の記録、そしてN響が所蔵する歴史的資料の目録の一部をデータベースとして公開。検索にも対応します。

WEB連載

NHK交響楽団のあゆみ 1945–2026 岩野裕一

THE HISTORY OF NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

WEB連載「NHK交響楽団のあゆみ」はこちらから

N響100年を記念した連載企画「NHK交響楽団のあゆみ」をホームページでご覧になれます。執筆は、『王道楽土の交響楽』『日本のピアノ100年』などの著書でも知られる、音楽評論家・編集者の岩野裕一氏。終戦後の「NHK交響楽団」への改称から、創立100年となる2026年までのN響の歴史を追いかけます。https://www.nhkso.or.jp/news/HistoricalOverview_contents.html

伝えるチカラ

NHK財団

◎公共メディアNHKを社会へ
◎社会貢献事業で、次世代の未来を応援！

NHK財団は、
子法人の「NHK交響楽団」と共に、
社会貢献事業を進めていきます。

ステラnet

NHK財団の最新情報はこちらから

N響の社会貢献

音楽は人々を元気づけ、ひとときの安らぎを与えてくれます。N響はコンサートホールを飛び出して、さまざまな場所、さまざまな人たちに美しい音色をお届けし、広く社会に貢献していきます。

子どもたちの未来を育む

子どもと大人が夏休みに名曲を楽しめる「**N響ほっとコンサート**」、N響練習所のある東京都港区の保育園児を招いてN響メンバーがじかに音楽の楽しさを伝える「**N響といっしょ！ 音を楽しむ!!**」などを開催。また折にふれて全国各地の小学校、中学校、高校を訪れてコンサートや指導を行い、近年はリモート技術を活用したクリニックなども開催しています。音楽や音楽家に身近に接してもらうことで豊かな心を育む取り組みに、これからも力を入れていきます。

優れた音楽家を育てる

1950年代、指揮を実践的に学ぶ場として設けたのが「**指揮研究員**」の制度です。有望な若手指揮者をオーケストラの現場に迎え入れ、国内外の巨匠たちとの音楽づくりに携わる機会を提供。日本のクラシック音楽界を担う人材を数多く輩出しています。また2003年に創設された「**N響アカデミー**」では、オーディションで選抜された受講生が、楽員からのレッスン、リハーサルや公演の参加などを通じてトレーニングを積んでいます。修了生はN響をはじめ国内外のオーケストラで活躍しています。

指揮研究員
井手 奏、佐久山修太

N響アカデミー在籍者
ヴァイオリン：中川紗優梨
クラリネット：白井宏典　打楽器：菊池幸太郎
（2026年11月1日現在）

地域の人たちとつながる

全国のさまざまな団体、自治体から要請を受けて、クラシック音楽の普及や文化振興のお手伝いをしています。幼稚園、コミュニティ施設などで演奏したり、生徒たちにレッスンをするなど、地元に密着した活動を行っています。最近は各地の放送局のイベントに参加して演奏する機会も増えています。NHKのテレビとラジオで日曜のお昼に放送される『NHKのど自慢』では、審査の結果を伝える「鐘」をN響の打楽器奏者が担当することもあります。

病院や福祉施設、被災地に届ける

病院や**高齢者施設**を楽員が訪れてミニコンサートを開き、入院する患者さん、看病するご家族、お年寄りの方たちに安らぎのひとときをお届けしています。また**被災地**にも出向き、演奏を通じて現地の人たちの応援にも力を入れています。2024年1月に起きた能登半島地震では、翌月にN響の楽員15人が石川県を訪問し、4地域・6か所の避難所でミニコンサートを開きました。

国際交流の輪を広げる

1960年の「世界一周演奏旅行」以来、**海外での演奏**にも力を入れてきました。近年は2025年5月にオランダ・アムステルダムでの「マーラー・フェスティバル」に参加するなど、世界最高峰の舞台に招かれることが増えています。一方国内では、首都圏の大学などと連携して、私たちが主催する公演への**外国人留学生**招待にも取り組んでいます。

異なる分野の専門家と連携する

デジタル活用や**医療**などの新しい課題に、異なる分野の人たちと手をたずさえて取り組んでいます。2022年11月の「NTT東日本 N響コンサート」では、離れていても同じ場所にいるように感じられるような映像・音声接続を実現する「IOWN APN関連技術」の検証実験に協力。リアルタイム・リモート演奏を成功させました。一方コロナウイルスへの対策がまだ手探りだった2020年7月、業界団体が行った「演奏中の飛沫」を調べる実験に多くの楽員や職員を派遣。これにより舞台上の安全な楽器配置などがわかり、業界の統一したマニュアル作りに役立ちました。

役員等・団友

役員等

理事長	根本拓也
常務理事	三溝敬志
理事	相川直樹　内永ゆか子　小宮 暁　杉山博孝　銭谷眞美　田辺雅泰　團 宏明　毛利 衛
監事	山崎英一　濵村和則
評議員	井上樹彦　江頭敏明　樺山紘一　神田真介　菅原 直　清野 智　田中宏暁　檀 ふみ 坪井節子　伯野卓彦　前田昭雄　三浦 惺　渡邊 修

事務局

演奏制作部

岩渕一真　内山弥生　木村英代
宮崎将一郎　徳永匡哉　小倉康平
石井 康　髙橋 啓
沖 あかね　上原 静

企画プロモーション部

川瀬直人　黒川大亮
猪股正幸　三浦七菜子
吉賀亜希
宮崎則匡

経営管理部

野村 歩　杉山真知子
浅田武志　長津紗弥
目黒重治
吉田麻子

特別主幹

中野谷公一

技術主幹

尾澤 勉

芸術主幹

西川彰一

団友

名誉コンサートマスター

堀 正文

コンサートマスター

海野義雄
川上久雄
篠崎史紀
徳永二男
堀 伝
山口裕之

ヴァイオリン

板橋 健
梅澤美保子
大澤 浄
大林修子
大松八路
川上朋子
木全利行
窪田茂夫
黒柳紀明
公門俊之
齋藤真知亜
酒井敏彦
清水謙二
鈴木弘一
田潤 彰
田中 裕
鶴我裕子
中瀬裕道
永峰高志
堀江 悟
前澤 均
宮里親弘
武藤伸二
村上和邦
横山俊朗
蓬田清重

ヴィオラ

大久保淑人
小野 聡
小野富士
梯 孝則
菅沼準二
店村眞積
田潤雅子
中竹英昭
三原征洋
村山 弘
山田雄司

チェロ

岩井雅音
木越 洋
齋藤鶴吉
三戸正秀
銅銀久弥
丹羽経彦
平野秀清
藤本英雄
茂木新緑

コントラバス

井戸田善之
志賀信雄
佐川裕昭
新納益夫

フルート

菅原 潤
細川順三
宮本明恭

オーボエ

青山聖樹
北島 章
浜 道晃
茂木大輔

クラリネット

磯部周平
加藤明久
横川晴児

ファゴット

岡崎耕治
霧生吉秀
菅原恵子

ホルン

大野良雄
中島大之
樋口哲生
松﨑 裕
山田桂三

トランペット

井川明彦
来馬 賢
関山幸弘
津堅直弘
栃本浩規
福井 功
佛坂咲千生

トロンボーン

伊藤 清
神谷 敏
栗田雅勝
三輪純生
吉川武典

テューバ

多戸幾久三
原田元吉

打楽器

有賀誠門
岡田知之
瀬戸川 正
百瀬和紀

ピアノ

本荘玲子

理事長

曽我 健
田畑和宏
野島直樹
日向英実
木田幸紀
森 茂雄
今井 環
根本佳則
今村啓一

役員

加納民夫
唐木田信也
斉藤 滋
原 武
山崎大樹

事務局

稲川 洋
入江哲之
金沢 孝
小林文行
清水永一郎
髙木かおり
中馬 究
出口修平
利光敬司
芳賀由明
望戸一男
諸岡 淳
山本能寛
吉田博志
渡辺 克
渡辺克己

フィルハーモニー2026年11月号｜第98巻 第8号
2026年11月1日発行　ISSN 1344-5693

公益財団法人NHK交響楽団
〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49
TEL：(03) 5793-8111 / FAX：(03) 3443-0278
発行人◎三溝敬志／編集人◎猪股正幸

企画・編集：(一財)NHK財団
取材・編集：㈱アルテスパブリッシング
表紙・本文デザイン：寺井恵司

印刷：佐川印刷株式会社
©無断転載・複製を禁ず

NHK WORLD PREMIUM

NHKワールド・プレミアムは、旅行中の日本人または海外在住者向け日本語チャンネルです。
*日本国内では視聴することができません。海外にいらっしゃる間に視聴できます。

NHK



ご存知ですか?

海外出張、海外旅行を計画されている方へ

海外で、ニュース・情報番組の同時配信と見逃し配信が、無料で視聴可能!



*視聴可能は毎日５時間程度

海外にいる日本人のみなさまの安全・安心のため、ニュース・情報番組は、NHKのウェブサイトで、無料で同時配信と見逃し配信を行っています。

特に見逃し配信は、海外でも時差を気にせず、NHKニュースをご覧いただけます。

視聴方法はこちら ▶▶

*日本国内では視聴することができません。
海外にいらっしゃる間に視聴できます。

海外にお住まいの方には

NHKのニュースや情報番組、ドラマ、子ども番組、音楽番組などを24時間編成で有料で放送しています。世界のおよそ80の国・地域の約2,400万世帯以上で視聴できます。

[エリア][国/地域]の順に選択の上、お住まいの地域で見られる放送事業者を検索してください。



利用できるサービスを探す

お住まいの国/地域を選択

エリア 選択してください/Select

国 選択してください/Select

NHK WORLD JAPAN

NHK WORLD-JAPAN

NHK WORLD-JAPAN is the international service of Japan's public media organization. It provides a global audience with information about Japan and Asia on TV, radio, and online. Content is available in English and other languages.



Disaster and safety-related information is updated instantly, via emergency alert screens on the website and push notifications on the app.

Get real-time alerts from our app.

■Earthquake, Tsunami, and Weather Emergency Warnings
Available in: English, Chinese, French, Hindi, Indonesian, Korean, Portuguese, Russian, Spanish, Thai, Vietnamese

■Breaking News (English)

(iPhone, Android)
▲Download here. ※App settings are required.

NHK ONE



©NHK・dwarf

番組の同時配信、見逃し・聴き逃し配信、ニュースの記事や動画などの情報を
テレビ※やスマホ・タブレット、パソコンで

※インターネット接続に対応したテレビ

WEBサイト(HP)

NHK ONE

アプリ

NHK ONE

NHK ONE ニュース・防災

NHK ONE for School

NHK ONE らじる★らじる

NHKゴガク 語学講座

世帯ですでに受信契約を締結されている場合は、別途のご契約や追加のご負担は必要ありません
(「NHK ONE らじる★らじる」など、ラジオ関連サービスは受信契約の対象外です)

NHK ONE ここがイチオシ!

総合・Eテレの番組をネットで



命と暮らしを守る情報が充実



各地の"ローカル番組"も配信



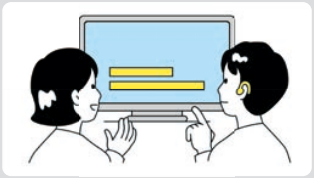
放送から1週間は何度でも見放題



"キッズモード"や教育コンテンツも



字幕放送で見たい人に「ぴったり字幕」



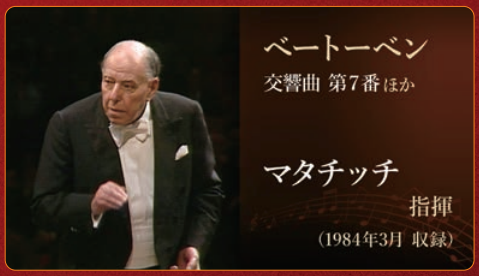
ドラマ、ドキュメンタリーなど名作20,000本以上配信中！

NHKオンデマンド

有料動画配信サービス

NHK交響楽団の名演を
いつでも、どこでも、何度でも













懐かしの「N響アワー」から「クラシック音楽館」まで
世界的マエストロによる演奏を 毎月配信中！

まるごと見放題パック
月額990円 税込

NHKオンデマンドコールセンター
0570-083333
携帯電話・IP電話 03-6743-6777
受付時間 9:30〜22:00

番組ラインアップなどの詳細は
公式ウェブサイトでチェック！
https://www.nhk-ondemand.jp



11 月 16 日発売〈紙版・デジタル版〉

『目の眼』12・1 月号
特集「内田鋼一×骨董　コレクションとしつらい」

世界各地の工芸美術を学び、独自の世界観を築き上げた陶芸家・内田鋼一。
その創作の原点に、古美術・骨董があることはあまり語られていない。

今特集では、自身のコレクションと、近年手がけているラグジュアリーな宿やリゾート施設の
しつらいを多数掲載。古物愛好家の側面から、内田鋼一の仕事を紹介してみたい。

その目で選ばれる古物やしつらいは、
私たちの日々の暮らしにも彩りを加えるヒントになるかもしれない。

目の眼は 雑誌&ウェブで 骨董古美術の愉しみを伝えています

menomeonline.com

目の眼

かんぽ生命 *presents*

N響第九

Special Concert

100th NHKSO NHK SYMPHONY ORCHESTRA TOKYO



© 平舘平/東京・春・音楽祭2026

日本を愛し、N響を鍛えた巨匠「N響第九」で引退

バッハ／「高き天よりわれは来れり」によるカノン風変奏曲 BWV 769
Bach / Canonic Variations on *Vom Himmel hoch, da komm ich her* BWV 769
オルガン：勝山雅世
Masayo Katsuyama, *organ*

N響100年特別企画　ベートーヴェン交響曲全曲演奏5

交響曲 第9番 ニ短調 作品125「合唱つき」

Beethoven Symphony No. 9 D Minor Op. 125, *Choral*



2026年12月23日(水) 7:00pm | サントリーホール

Wednesday, December 23, 2026 | Suntory Hall

一般：S ¥20,000　A ¥16,500　B ¥13,000　C ¥9,000
ユースチケット(29歳以下)：S ¥10,000　A ¥8,200　B ¥6,500　C ¥4,500
※全て税込価格

チケット発売開始：9月6日(日) 10:00am
N響定期会員先行発売日：9月1日(火) 10:00am
※定期会員は一般料金から10%割引

JP INSURANCE かんぽ生命

指揮：マレク・ヤノフスキ

Marek Janowski, *conductor*

ソプラノ：森谷真理 | メゾ・ソプラノ：杉山由紀
テノール：村上公太 | バス・バリトン：トマシュ・コニエチュニー
合唱：東京オペラシンガーズ Tokyo Opera Singers, *chorus*
合唱指揮：冨平恭平 Kyohei Tomihira, *chorus master*

Mari Moriya, *soprano*



Yuki Sugiyama, *mezzo soprano*



Kota Murakami, *tenor*



Tomasz Konieczny, *bass-baritone*

前売所
- WEBチケットN響 ..... nhkso.pia.jp
- N響ガイド 0570-02-9502
- サントリーホールチケットセンター ..... 0570-55-0017 suntory.jp/HALL
- チケットぴあ ..... pia.jp/t/nhkso
- e+(イープラス) ..... eplus.jp/nhkso
- ローソンチケット ..... l-tike.com/nhkso

WEBチケット N響

お問い合わせ：N響ガイド 0570-02-9502
(営業日・営業時間はN響ホームページでご確認ください)

●ユースチケット(29歳以下)はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。● 定期会員割引・先行発売のお取り扱いはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。● 車いす席をご希望の方は、N響ガイドへお問い合わせください。●N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。●未就学児のご入場はお断りしています。●やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。● 公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

主催：NHK交響楽団
特別協賛：株式会社かんぽ生命保険

100th
NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

N響第9

NHK交響楽団
ベートーヴェン「第9」演奏会
Beethoven 9th Symphony Concerts



指揮
マレク・ヤノフスキ
Marek Janowski, conductor

日本を愛し、N響を鍛えた巨匠「N響第9」で引退

N響100年特別企画
ベートーヴェン交響曲全曲演奏 5

ベートーヴェン／交響曲 第9番 ニ短調 作品125「合唱つき」
Beethoven Symphony No. 9 D Minor Op. 125, *Choral*

2026年
12/17（木）7:00pm | 12/18（金）7:00pm | 12/19（土）2:00pm
12/20（日）2:00pm | 12/22（火）7:00pm*

NHKホール NHK Hall

*22日公演はNHK／NHK厚生文化事業団主催のチャリティーコンサートです。プログラムは他の日程と同一です。

ソプラノ：森谷 真理

メゾ・ソプラノ：杉山 由紀

テノール：村上 公太

バス・バリトン：トマシュ・コニェチュニー

合唱：東京オペラシンガーズ
合唱指揮：冨平 恭平

主催：NHK／NHK交響楽団
主催（22日）：NHK／NHK厚生文化事業団

協賛：みずほ証券株式会社／はごろもフーズ株式会社／株式会社明電舎

お問い合わせ
N響ガイド 0570-02-9502
（営業日・営業時間はN響ホームページでご確認ください）
NHK厚生文化事業団：03-3476-5955
（22日公演のみ、平日10:00am～6:00pm）

チケット発売開始

9月6日（日）10:00am
N響定期会員先行発売日：9月1日（火）10:00am

料金（税込）

一般	S ¥17,000	A ¥13,500	B ¥10,000	C ¥7,500	D ¥5,000
ユーススチケット（29歳以下）	S ¥8,500	A ¥6,750	B ¥5,000	C ¥3,750	D ¥2,500

※定期会員は一般料金から10%割引

前売所

WEBチケットN響	nhkso.pia.jp	e+（イープラス）	eplus.jp/nhkso
N響ガイド	0570-02-9502	ローソンチケット	l-tike.com/nhkso
チケットぴあ	pia.jp/t/nhkso		

●ユーススチケット（29歳以下）はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。●定期会員割引・先行発売のお取り扱いはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。●車いす席をご希望の方は、N響ガイド（22日公演のみNHK厚生文化事業団）へお問い合わせください。●未就学児のご入場はお断りしています。●やむを得ない理由で出演者等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。●公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

100th NHKSO NHK SYMPHONY ORCHESTRA TOKYO

NHKSO 100th Anniversary Commemoration: New Year Concerts 2027

Fabio Luisi, conductor
Camilla Nylund, soprano
Klaus Florian Vogt, tenor
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

創立100年記念 N響ニューイヤーコンサート

オペラの名匠ルイージと声楽界の至宝たちが贈る、ワーグナーとオペレッタの華麗なるガラ・コンサート

名門歌劇場シェフも歴任するマエストロ
指揮◉ファビオ・ルイージ（NHK交響楽団 首席指揮者）

世界の歌劇場を魅了する至高のプリマドンナ
ソプラノ◉カミラ・ニールンド

ワーグナー歌唱の理想を体現する名テノール
テノール◉クラウス・フロリアン・フォークト

管弦楽◉NHK交響楽団

2027
1月10日（日）3:00pm
1月11日（月・祝）3:00pm
NHKホール

January
10 (Sun) 3:00pm
11 (Mon) 3:00pm
NHK Hall

主催：NHK／NHK交響楽団



チケット発売中

演奏曲目は本誌「特別公演」ページをご覧ください。

前売所

WEBチケットN響 …… nhkso.pia.jp
N響ガイド …… 0570-02-9502
チケットぴあ …… pia.jp/t/nhkso
e+（イープラス） …… eplus.jp/nhkso
ローソンチケット …… l-tike.com/nhkso

WEBチケットN響

- ユースチケット（29歳以下）はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。
- 定期会員割引・先行発売のお取り扱いはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。
- 車いす席についてはN響ガイドにお問い合わせください。
- N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。

料金（税込）

一般 | S ¥15,000 | A ¥12,000 | B ¥9,500 | C ¥7,500 | D ¥6,000
ユースチケット（29歳以下） | S ¥7,500 | A ¥6,000 | B ¥4,750 | C ¥3,750 | D ¥3,000
（定期会員は一般料金から10%割引）

お問い合わせ

N響ガイド 0570-02-9502 営業時間：10:00am～5:00pm（定休日：土・日・祝日）
※東京都内での主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am～開演時刻まで営業
※電話受付のみの営業

- 未就学児のご入場はお断りしています。
- やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。
- 公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

託児コーナー

お申し込み：コンビスマイル株式会社
メール：smile.gh@combi.co.jp（件名を「N響託児コーナー申し込み」と記載ください）
TEL：03-6231-6382（平日9:00am～5:00pm／土・日・祝日は休業）
※公演日の2営業日前までにお申し込みください（有料／定員になり次第受付終了）
※満2歳～未就学の方がご利用いただけます

Philharmony 11
フィルハーモニー
第98巻第8号
ISSN 1344-5693
定価300円 消費税込み



ご近所のイワタニは、
世界のイワタニです。



イワタニは、世界からガスを運び
安全と安心のネットワークで、
カセットガスやLPガスなど
さまざまなカタチに変えて日本全国にお届け。
今日も見えないところで、
あなたの暮らしを支えます。

Iwatani
岩谷産業株式会社